


マンガふるさと  
の偉人

# 支倉常長

Supported by  日本 THE NIPPON  
財団 FOUNDATION

 BIG

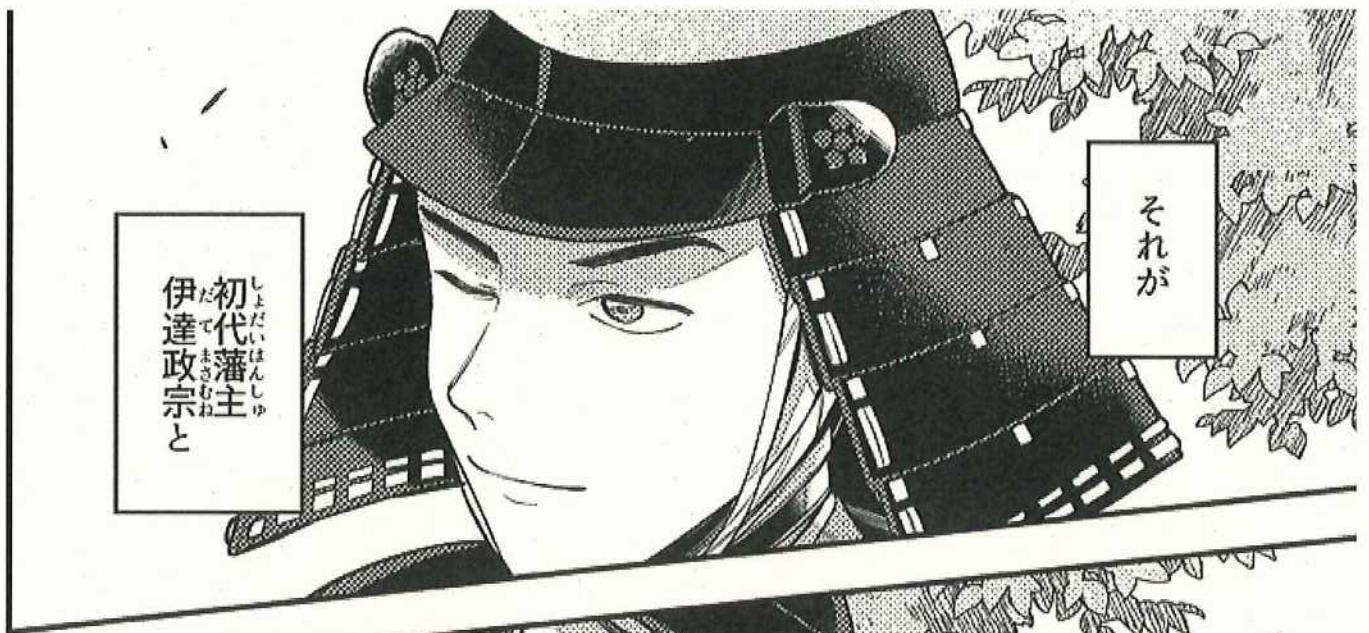




いま  
今からおよそ  
400年前

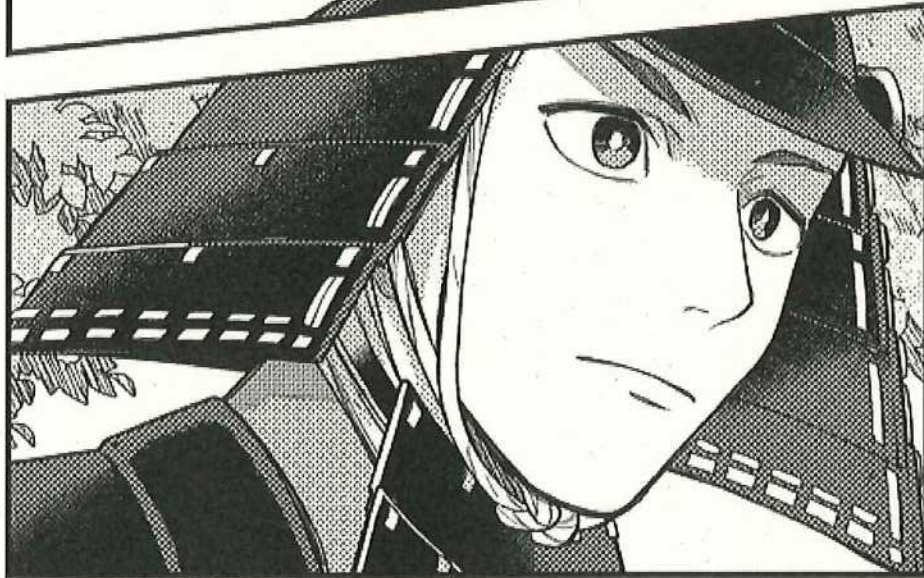
徳川家康が  
江戸幕府を  
開いてから  
間もないころ

ヨーロッパ世界に  
目を向けた男と  
その世界を  
実際に見てきた男が  
仙台藩にいた



初代藩主  
伊達政宗と

それが



その家臣の  
支倉六右衛門常長  
である



世界を股にかけた  
サムライであった

常長は



政宗は  
南蛮文化に  
高い関心を示し

※ポルトガルやスペインの文化のこと。  
東南アジアや中国、メキシコなどを通じて、日本へともたらされた。



長かつた  
戦国の世も  
終わり

1613  
(慶長18)年

日本も  
少しずつ  
平穩に  
なってきた



もつた  
いない  
お言葉  
です

つねなが  
常長 44歳




六右衛門

そちがわしの  
近くで  
長い間よく  
働いてきて  
くれたこと  
には  
礼を言うぞ

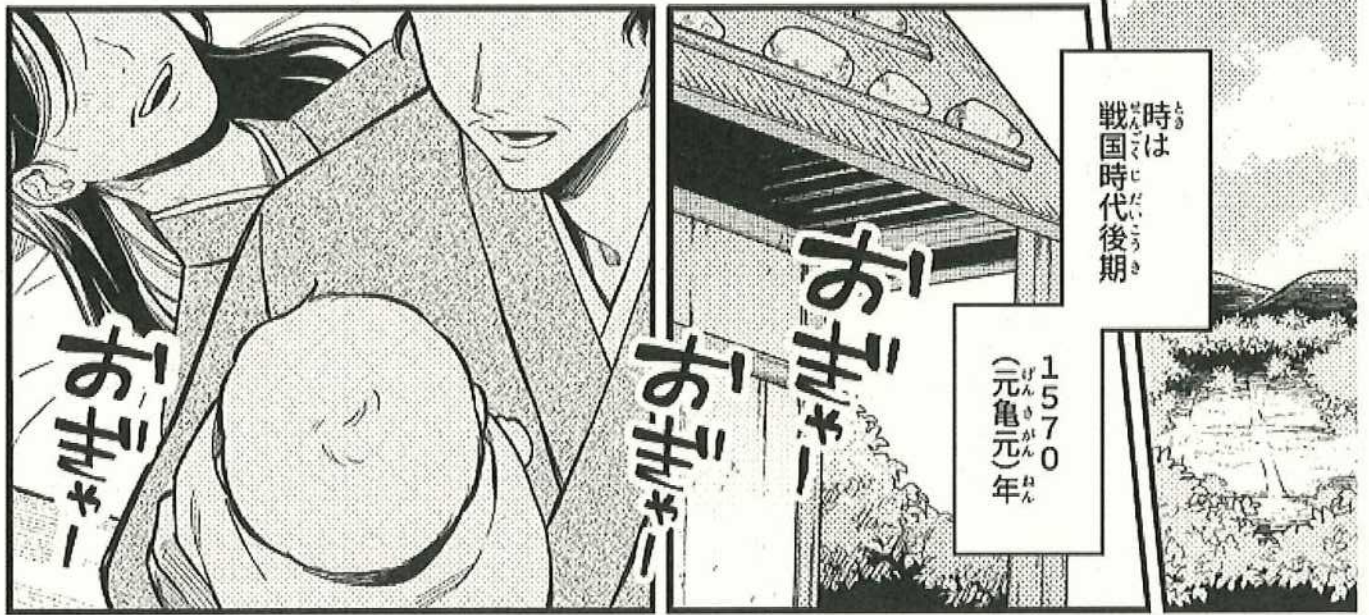
まさむね  
政宗 47歳





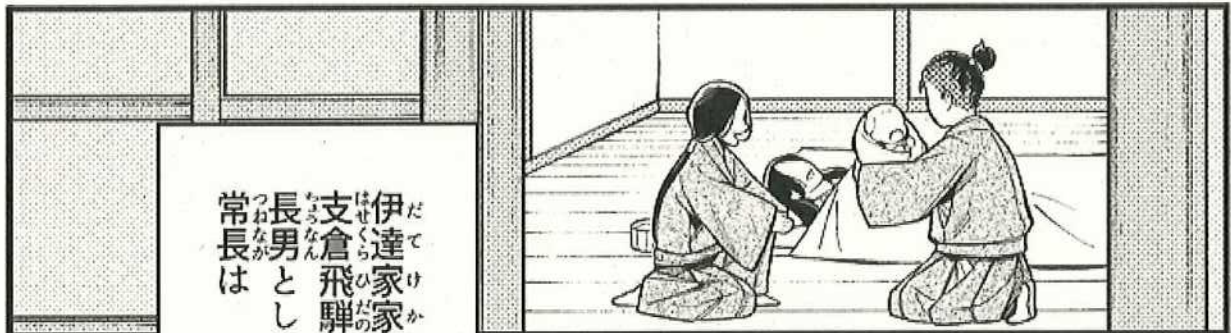
わしの使つかいとして  
スペインに行いき

そのための協きょうてい定ていが  
結むすべるよう  
交こうしやう渉じやうしてきてはくれぬか

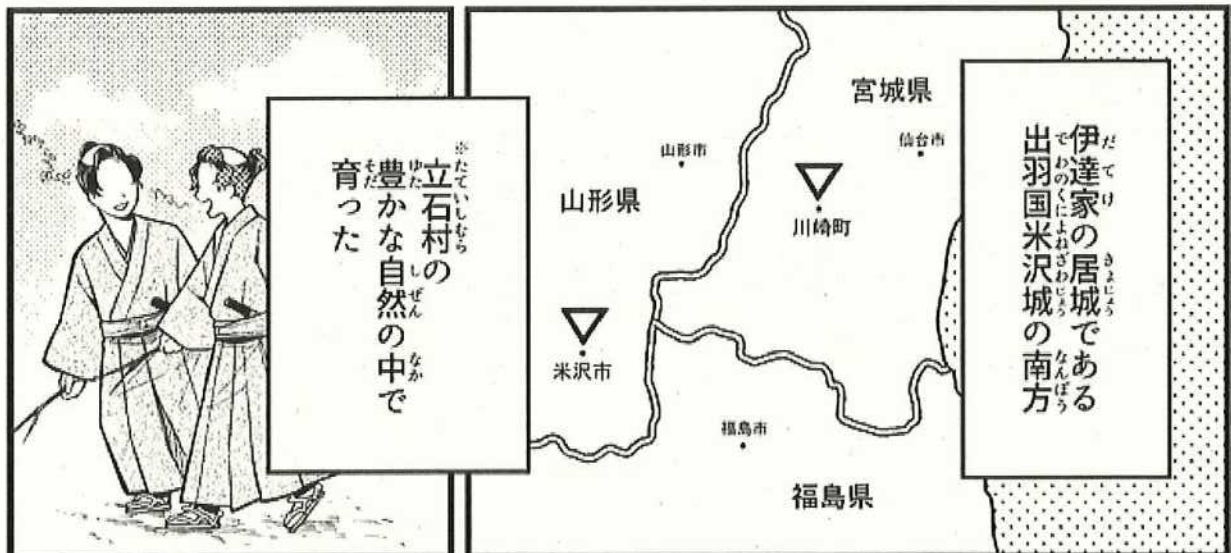


時は  
戦国時代後期

1570  
(元龜元)年



伊達家臣  
支倉飛騨守常成の  
長男として生まれた  
常長は



立石村の  
豊かな自然の中で  
育った

伊達家の居城である  
出羽国米沢城の南方

※現在の山形県米沢市立石

じっぽ つかなり  
実父・常成

くろえもん  
六右衛門

こちらに参れ

はい  
父上

つねなが さい  
常長 8歳ごろ



よそなたを  
養子に出す

わしの兄

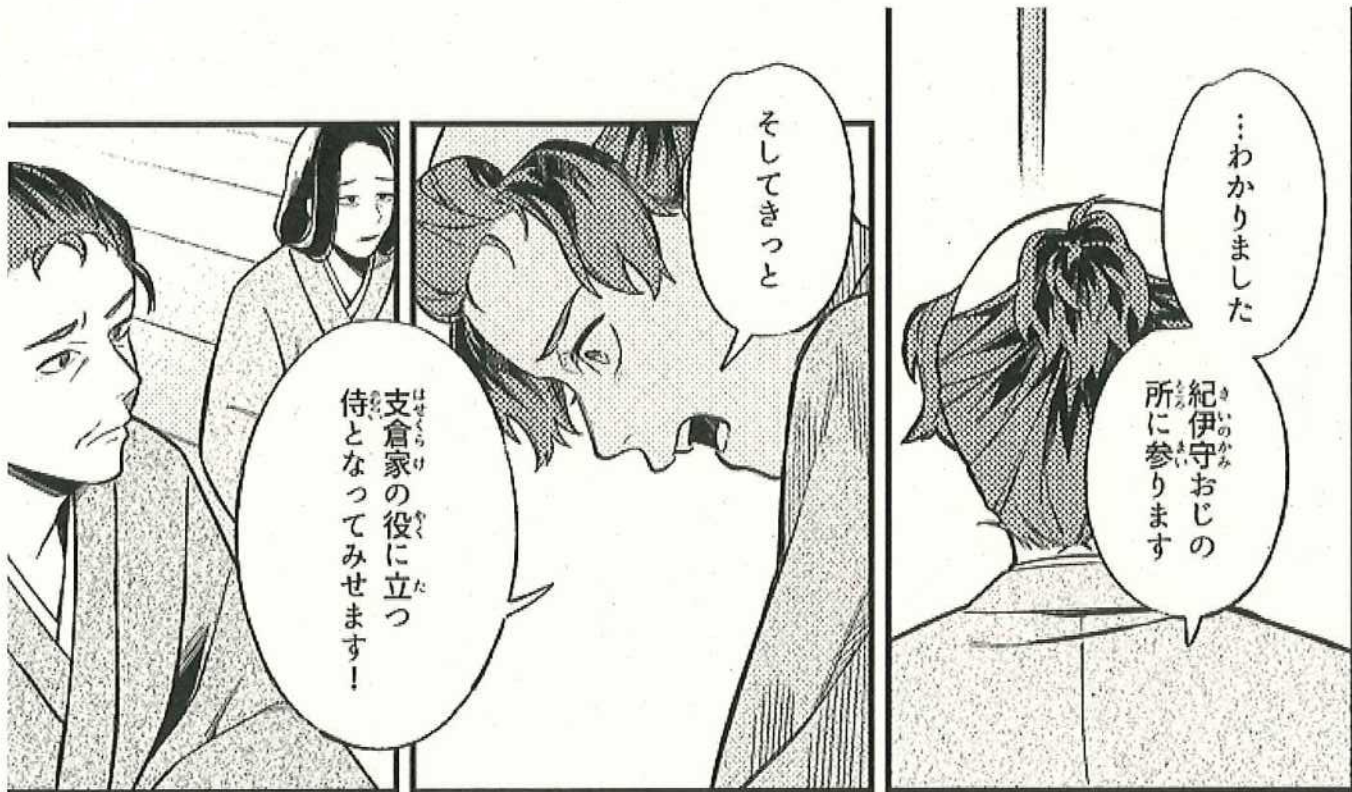
きいのかみ いえ  
紀伊守の家の  
子供になりなさい

そちに  
話さなければ  
ならないことがある



※紀伊守=時正





支倉家の役に立つ侍となってみせます！

そしてきっと

…わかりました

紀伊守おじの所に参ります

※現在の宮城県柴田郡川崎町支倉



陸奥国  
柴田郡支倉村にある  
上楯城で

仙台市  
川崎町  
上楯城  
山形市  
村田町  
蔵王町



いい覚悟だ  
立派になりなさい

こうして常長は  
男子のいない伯父  
支倉時正の  
養子となり



支倉家の  
跡取りとなるべく  
きびしく長い時を  
過ごすのであった

つねなが  
常長が元服して  
成人となる頃

かみだてじょうか  
上楯城下



1582  
(天正10)年

おだのぶなが  
織田信長が  
本能寺の変で  
自害し



1585  
(天正13)年

とよたけひでよし  
豊田秀吉が  
関白となった



1584  
(天正12)年

だてまさひね  
伊達政宗が  
父・輝宗から  
家督を譲られ  
伊達家当主となり





つねなが  
常長は  
初陣を  
迎え

引くな！

マア  
てがら  
手柄を立てるのじゃ！

その後



どうねん  
同年

政宗は秀吉の命によって  
岩出山城に居城を移転



伊達政宗の  
初上洛に従い

一緒に  
京都に滞在

1591  
(天正19)年



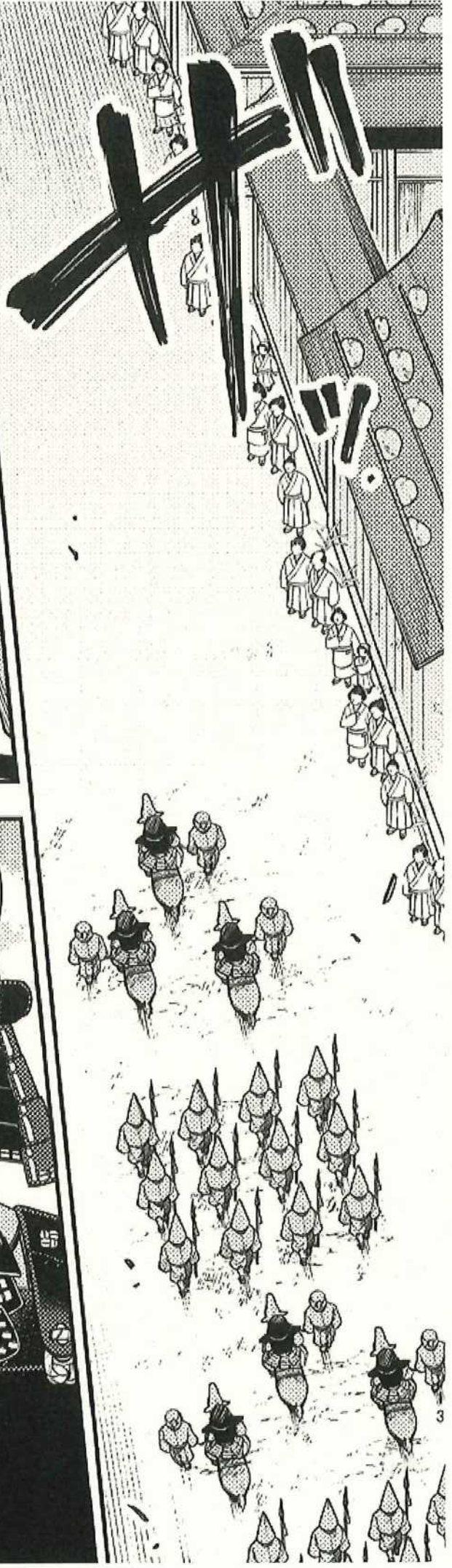
つねなが 常長 22歳

※現在の大崎市岩出山



1592  
ぶんりくがん  
 (文禄元)年

伊達政宗  
 朝鮮出兵のため  
 京都を出陣



常長も  
 義父・時正とともに  
 従軍した

つねなが  
 常長 23歳

※特定の役割はないが、時と場合に依りて様々な役割が与えられる者を指すと考えられている。



政宗ととも  
朝鮮半島に渡海  
翌年帰国した

常長は  
御手明衆20名の  
中の1人として



まず、は  
道の広さを  
調べる

はい

この頃



帰国後

よし  
ここの町の様子を  
調べるんだ

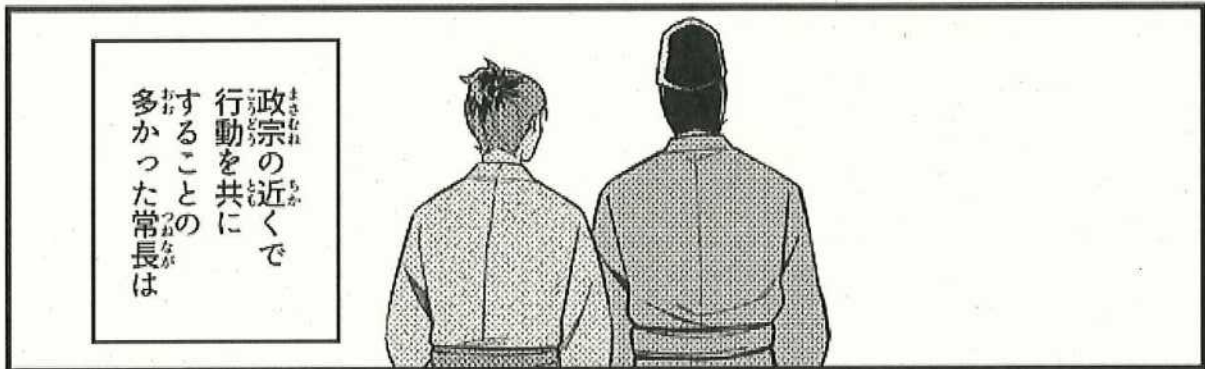


情報伝達や  
情報収集などを  
役割としていた

常長は  
政宗の使番として  
そば近くに仕え



この町での  
暮らしはどうじゃ



政宗の近くで  
行動を共に  
することの  
多かった常長は



政宗からの  
信頼も厚い



忠実な家臣の  
1人であった



男の子のご誕生です

おめでとう



おめでとう  
ございます...

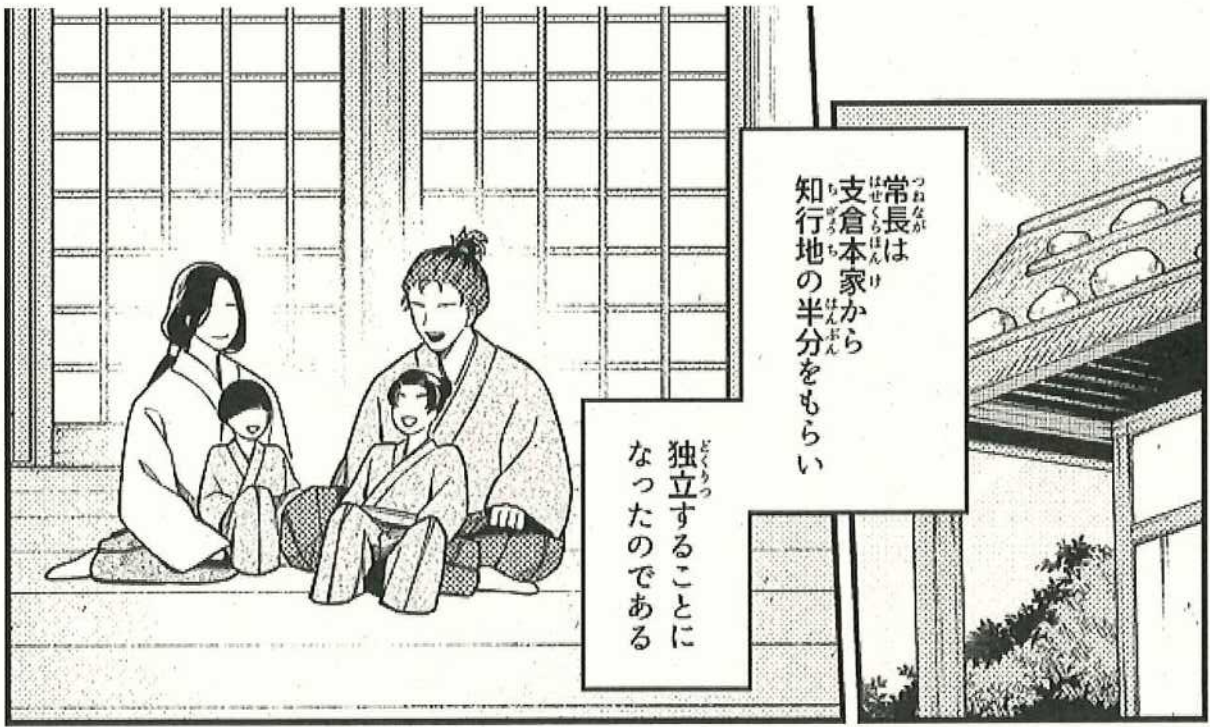
義父・時正に  
男子が生まれたことから  
常長は本家から  
分家することとなった



でかした!

これで  
支倉家も安泰だ

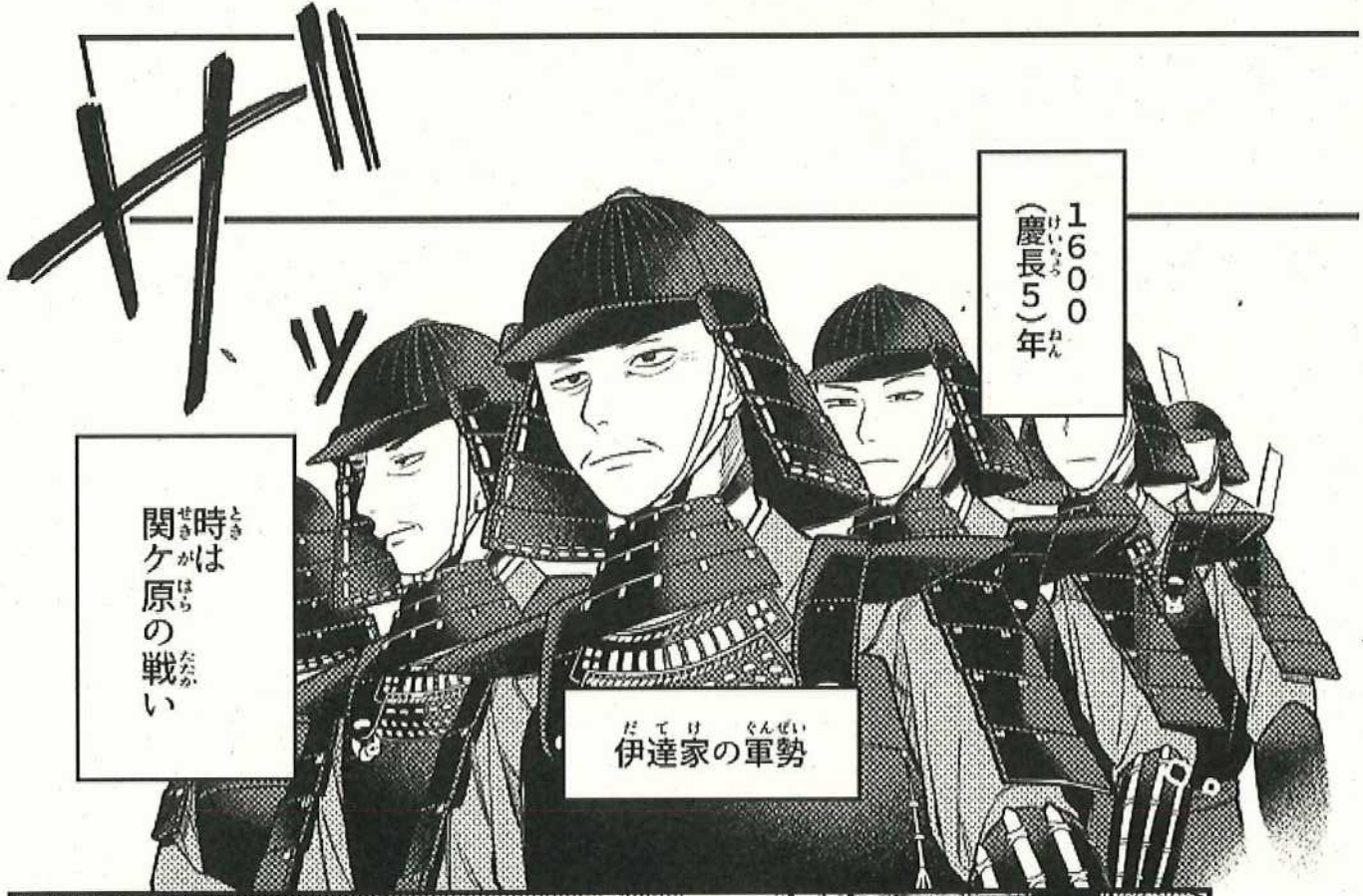




※常長の分家は、支倉家の系図によれば、  
1596(慶長元)年とされる。  
確証はないが、これに従えば常長が27歳頃となる。

常長は  
支倉本家から  
知行地の半分をもらい

独立すること  
になったのである



1600  
(慶長5)年

時  
関ヶ原の戦い

伊達家の軍勢



東北地方でも  
戦いが行われ

政宗は最上氏に  
援軍を送り

伊達勢が  
中ノ内城付近を  
進軍した

※中ノ内城(前川本城)付近 川崎町



江戸幕府を開き

1603  
(慶長8)年

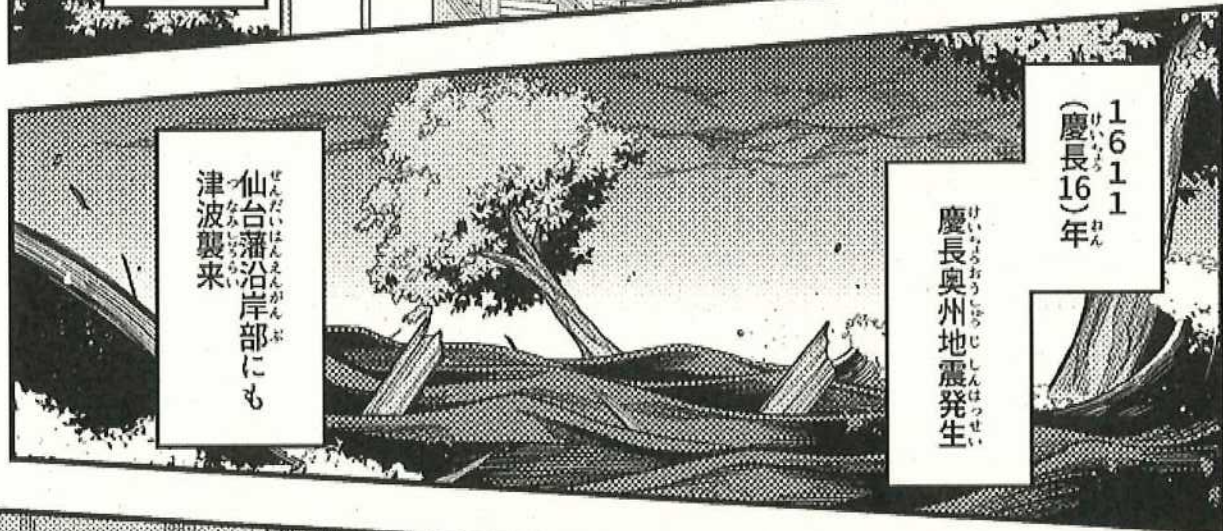
徳川家康が  
征夷大將軍に  
任ぜられ



仙台城の  
本丸大広間が完成

1610  
(慶長15)年

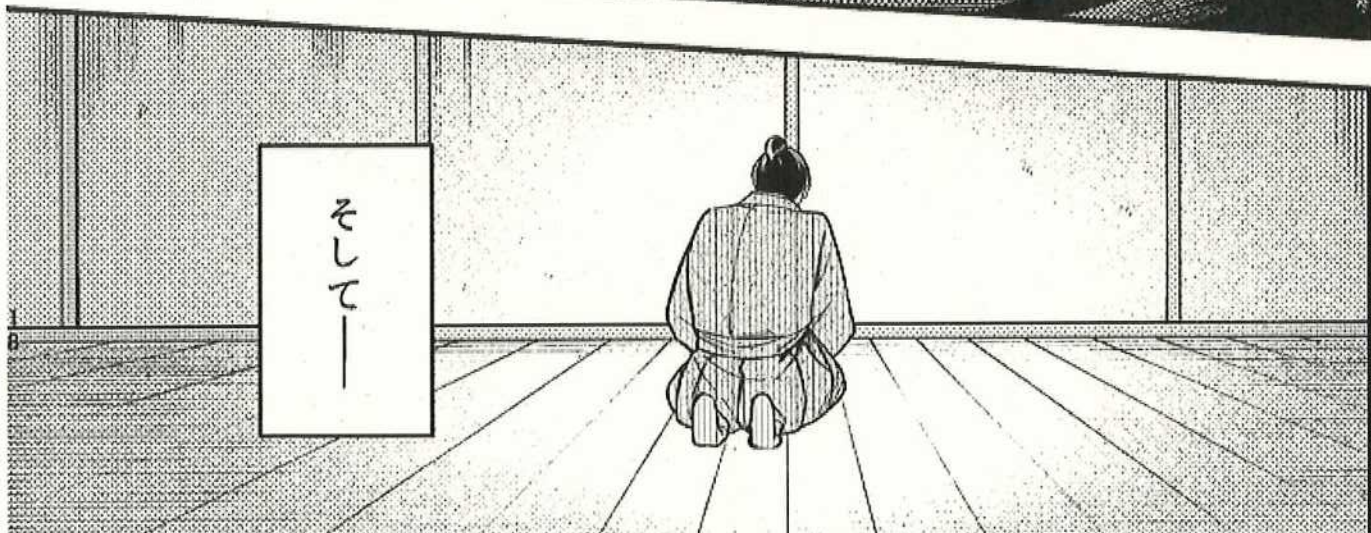
砂金氏が川崎城を  
築城したとされる



仙台藩沿岸部にも  
津波襲来

1611  
(慶長16)年

慶長奥州地震発生



そして――

1612  
(慶長17)年

この度もまた  
父の不祥事

誠に申し訳  
ございませんでした

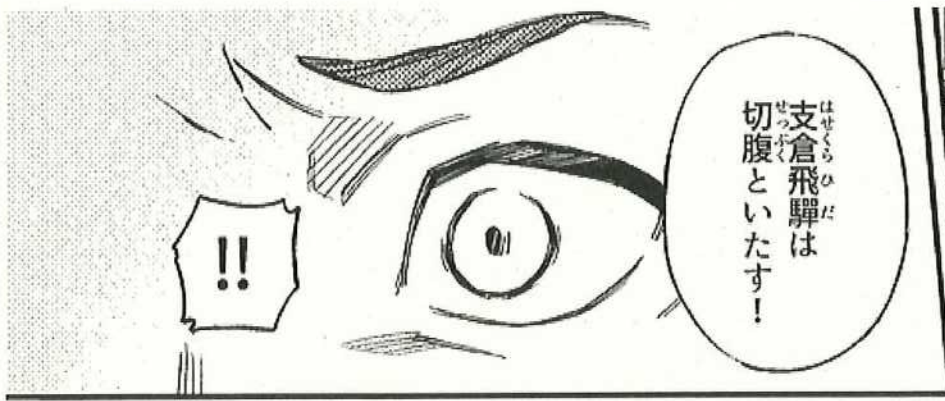
実は…

お前の言い訳など  
聞きとらない！

昨年さくねんから謹慎中きんしんちゆうの  
おぬしの父が  
またしてもこのありさま

一体いつたいどうなって  
おるのだ！

ほ本当に  
申し訳ございません





命は助けるのじゃ

勘弁せい…



……

…そなたの  
これまでの忠勤は  
認めるが



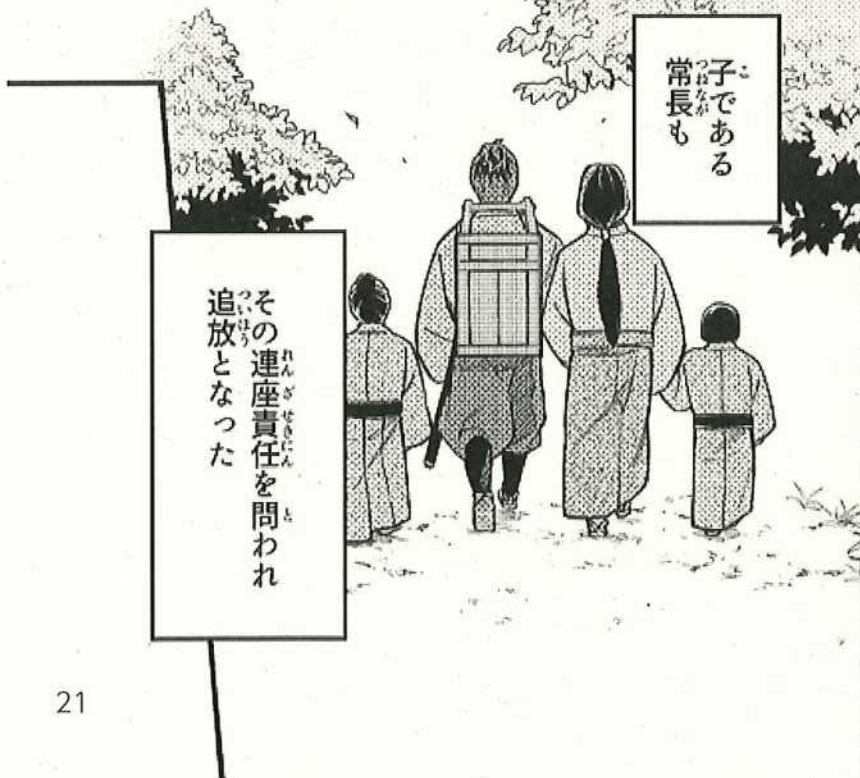
他の家臣に  
示しがかんのだ



…御屋形様

承知  
つかまつり  
ました

こうして



子である  
常長も

その連座責任を問われ  
追放となった



実父・常成は

たびたびの  
不祥事がもとで  
切腹



久しぶりじゃのう

常長

まさむね さい  
政宗 47歳



御屋形様…

お久しぶり  
ございます

つねなが さい  
常長 44歳



長かった  
戦国の世も  
終わり

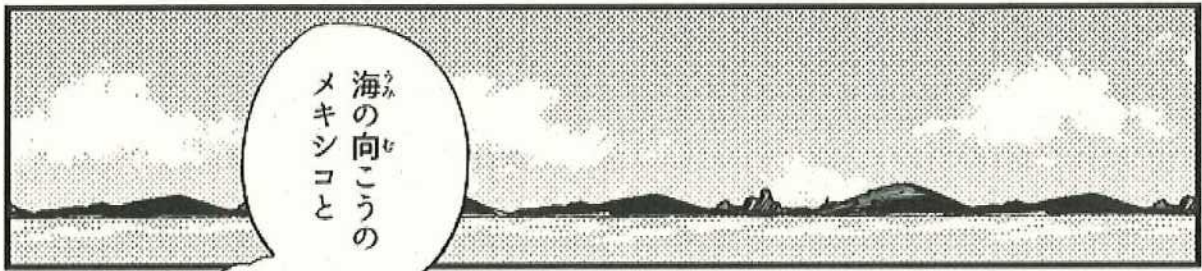
日本も少しづつ  
平穏になってきた

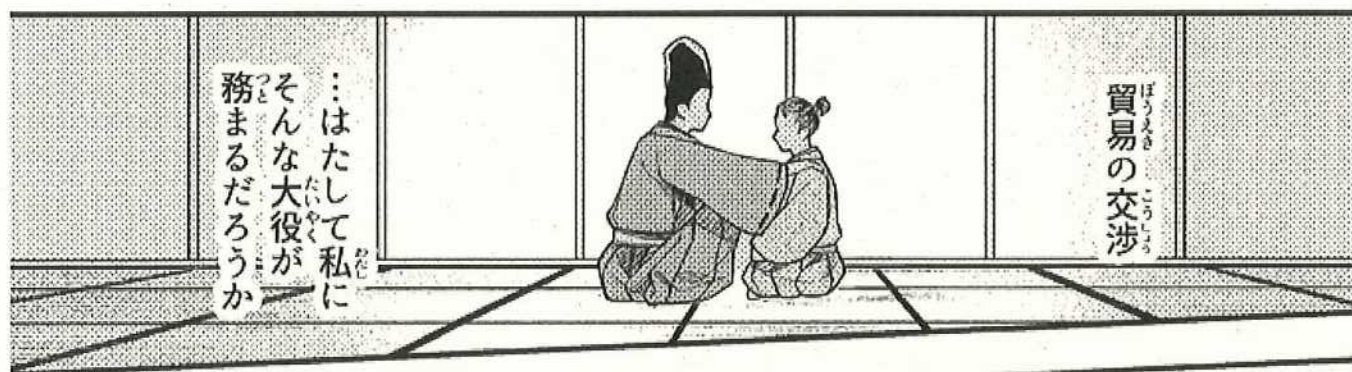
グムッ

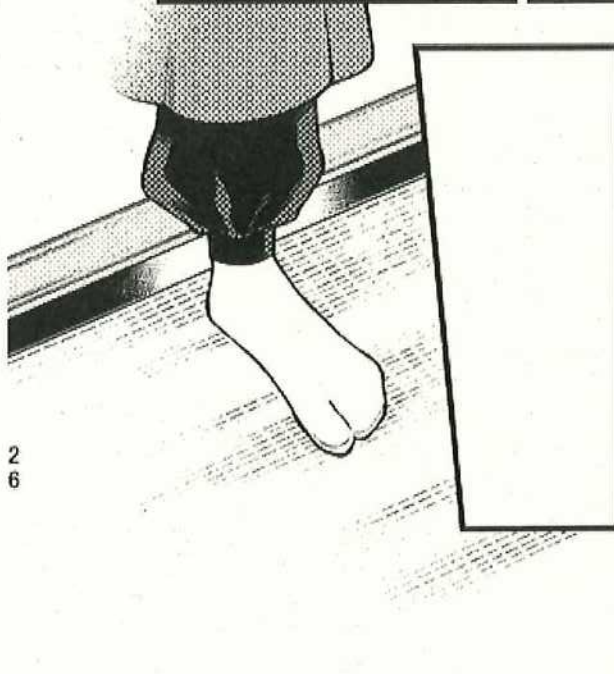
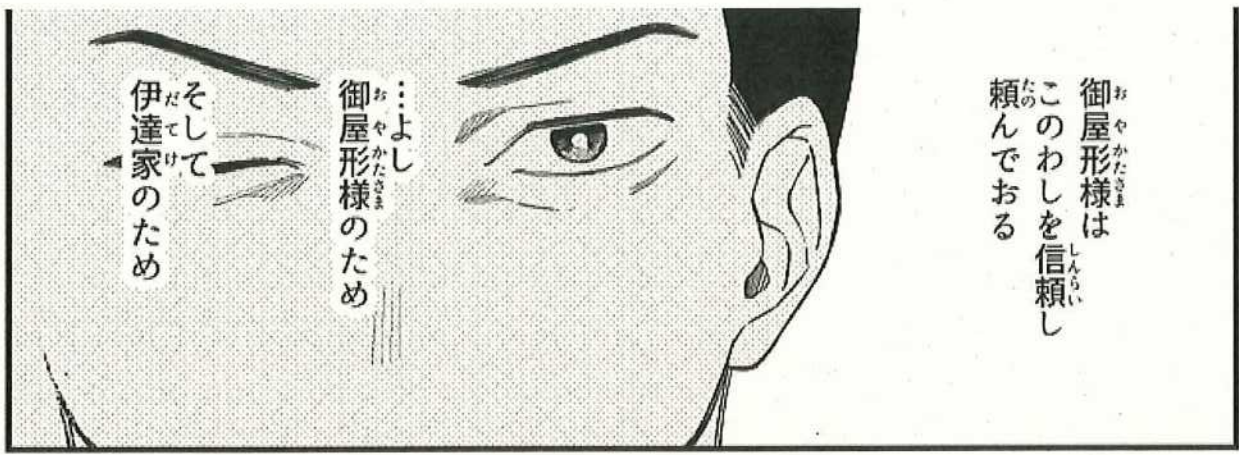


…そちは











神しん父ふの国くにに  
この男おとこを送おくる



お呼よびですか？

陸奥守むつのかみ様

ソテロ 40歳さい



ふたり  
2人ふたりでスぺインの国王こくおうと  
交渉こうしょうしてきては  
もらえぬか



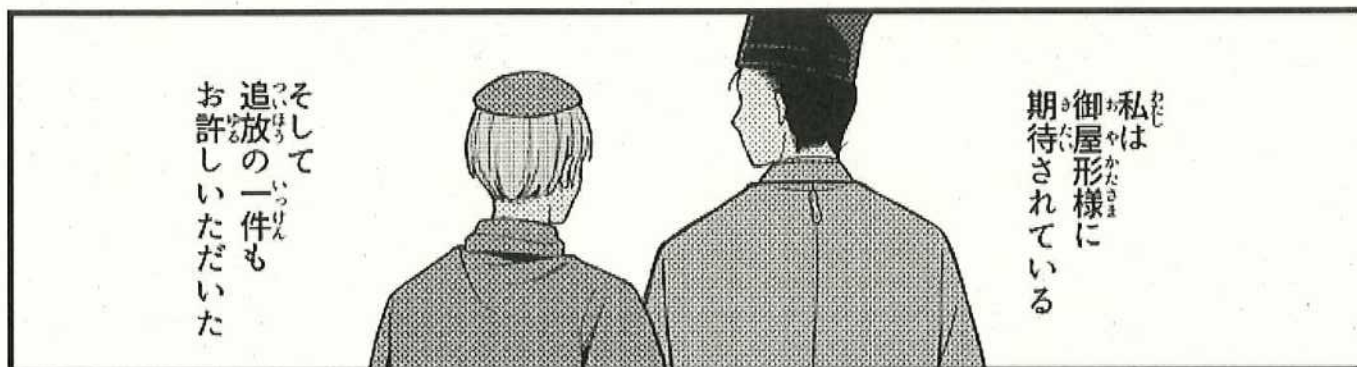
六右衛門殿ろくえもんどの

よろしく  
お願いします



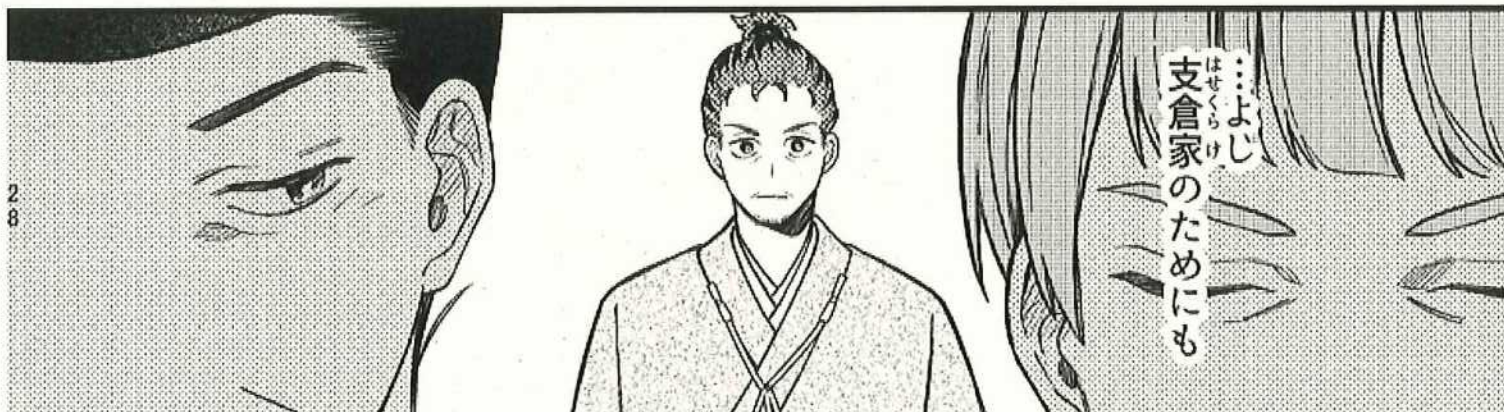
よろしく  
お願いします!

はい



そして  
追放の一件も  
お許しいただいた

私わたくしは  
御屋形様ごやくさまに  
期待されている

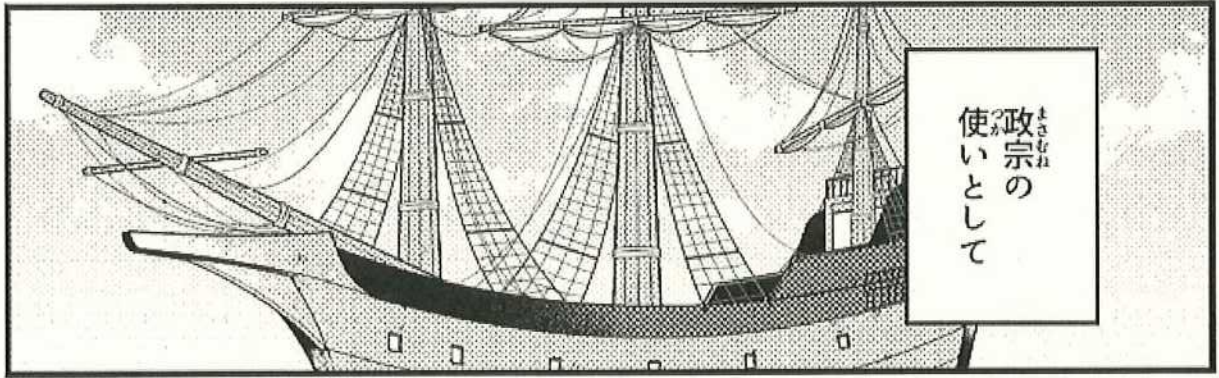


……よし  
支倉家のためにも

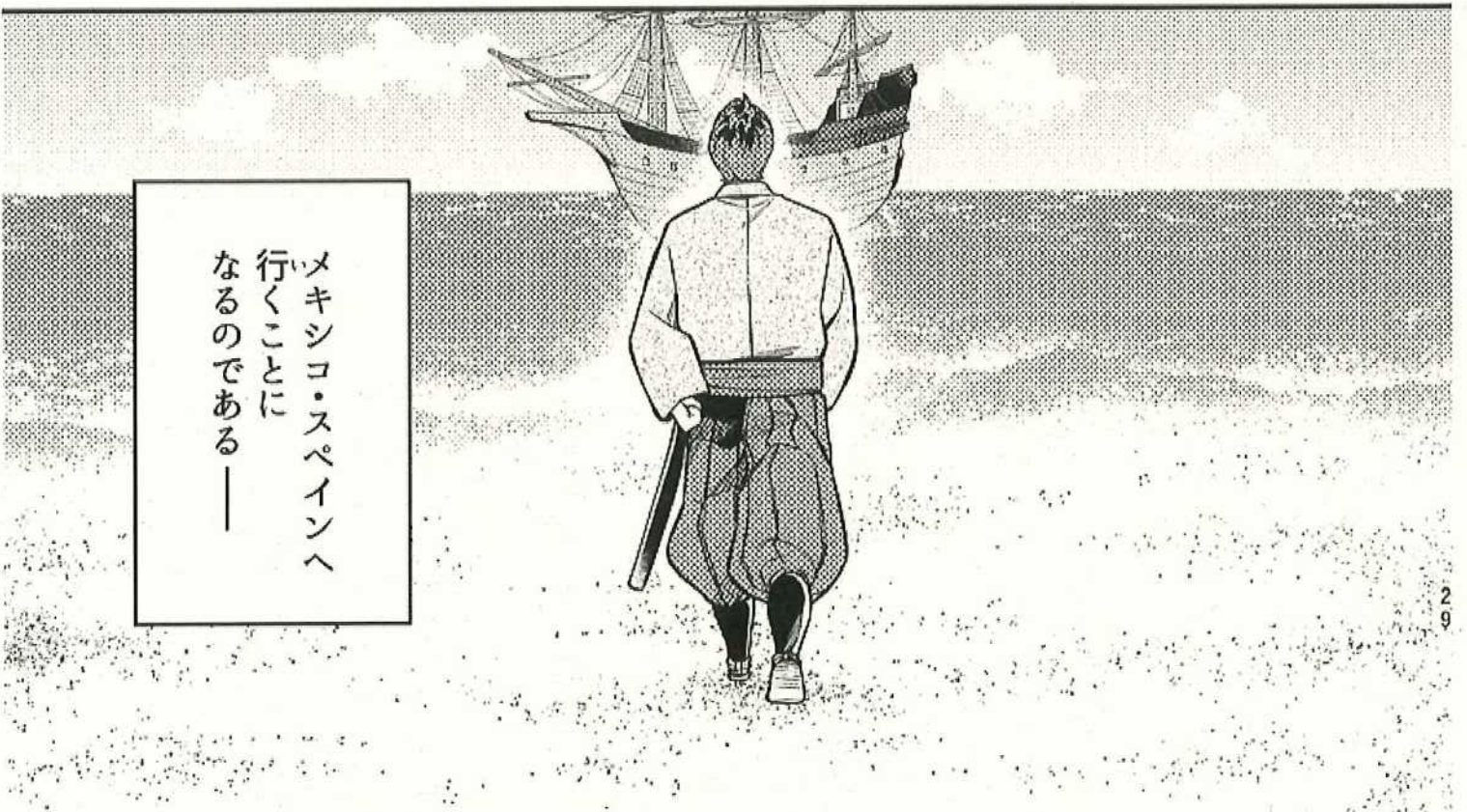


こうして常長は

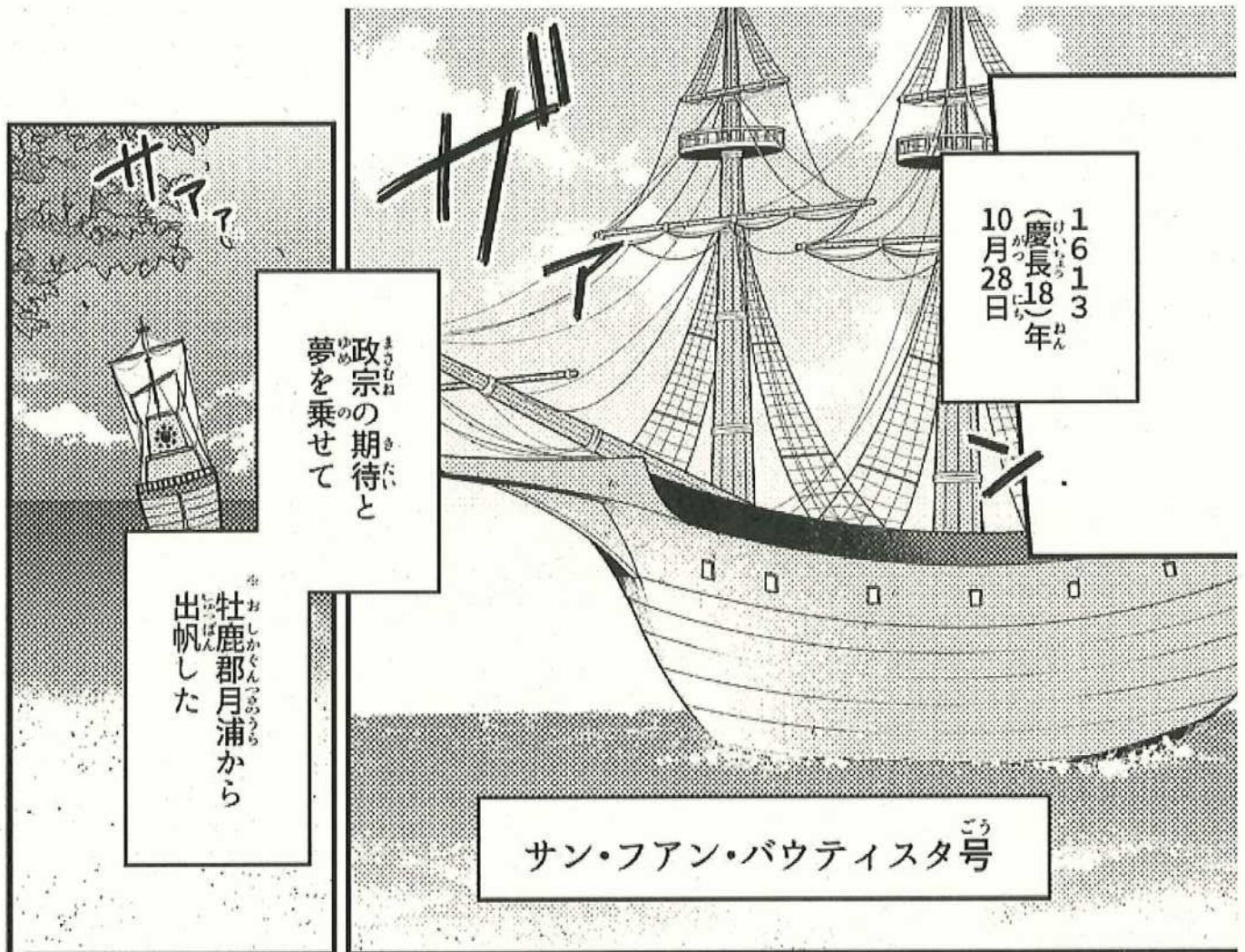
きつと  
成功させてみせる！



政宗の  
使いとして



メキシコ・スペインへ  
行くことになるのである――



1613  
(慶長18)年  
10月28日

政宗の期待と  
夢を乗せて

牡鹿郡月浦から  
出帆した

サン・フアン・パウティスタ号

※現在の石巻市



大型の  
西洋式帆船  
である

この船は  
スペイン人の  
協力を受け  
仙台藩が造った

※1611年に来日したスペイン大使。探検家・軍人・商人でもあった。



商人など

180人ほどが  
乗っていた

宣教師ソテロや  
スペイン大使の  
ビスカイノら  
南蛮人

仙台藩と  
江戸幕府の武士

常長や彼の従者のほか



ゴゴ

これは  
荒れるぞ

空模様  
が  
怪しくな  
って来たな

波も  
高くな  
って来たな

スペイン大使  
ビスカイノ 63歳



ザッ  
ア

まずい!

早く  
帆を下  
ろせ!



ヒ  
ユ

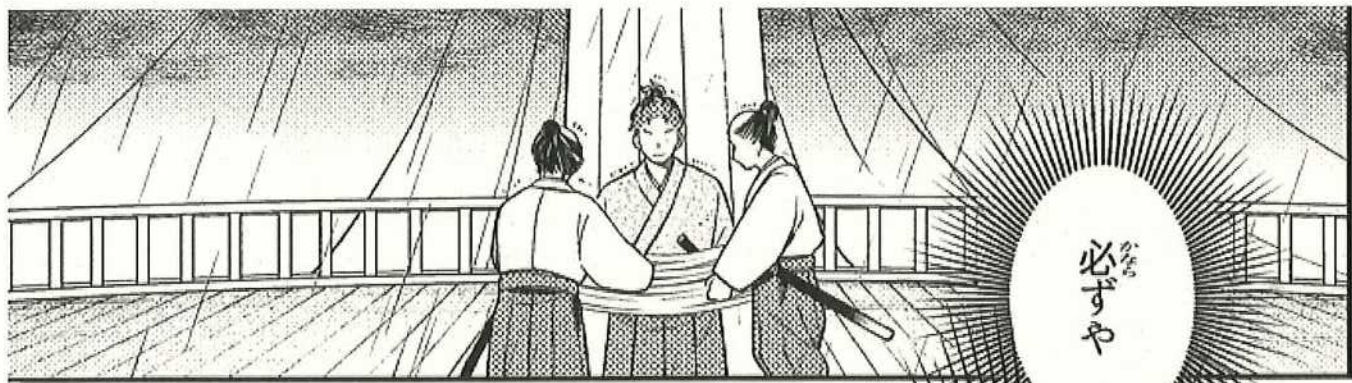
!

オ

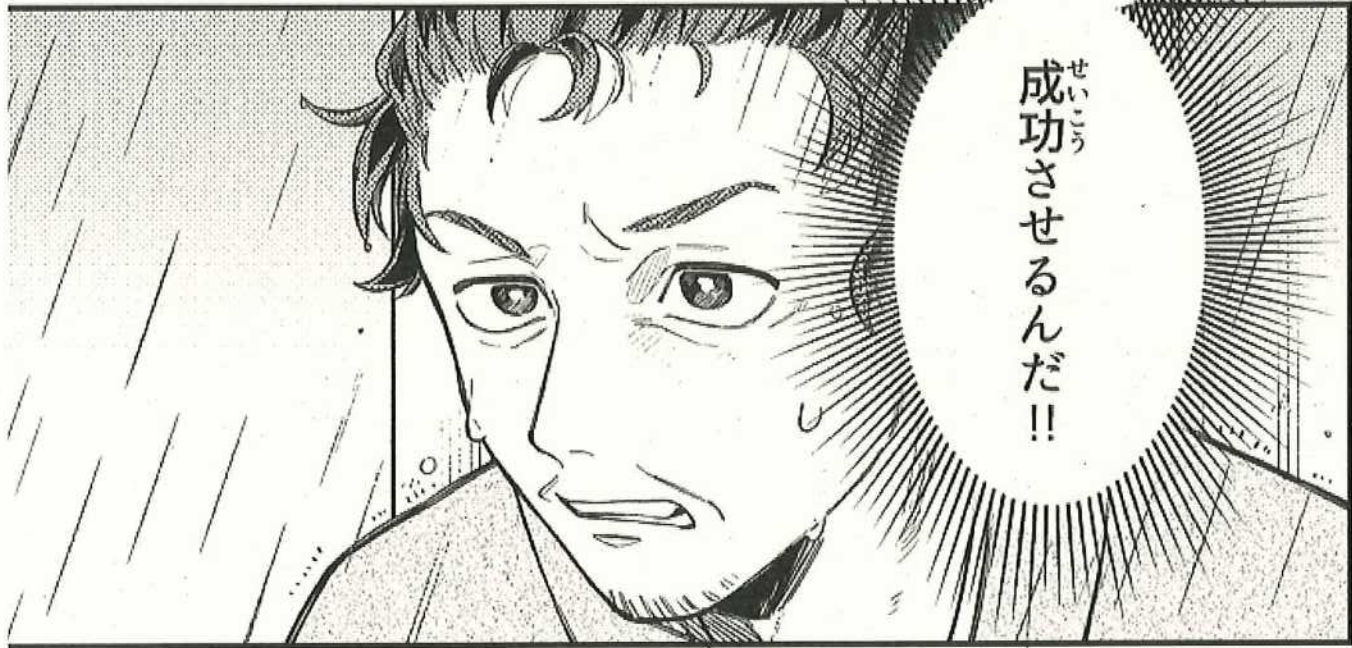


マストが  
折れて  
しまうぞ

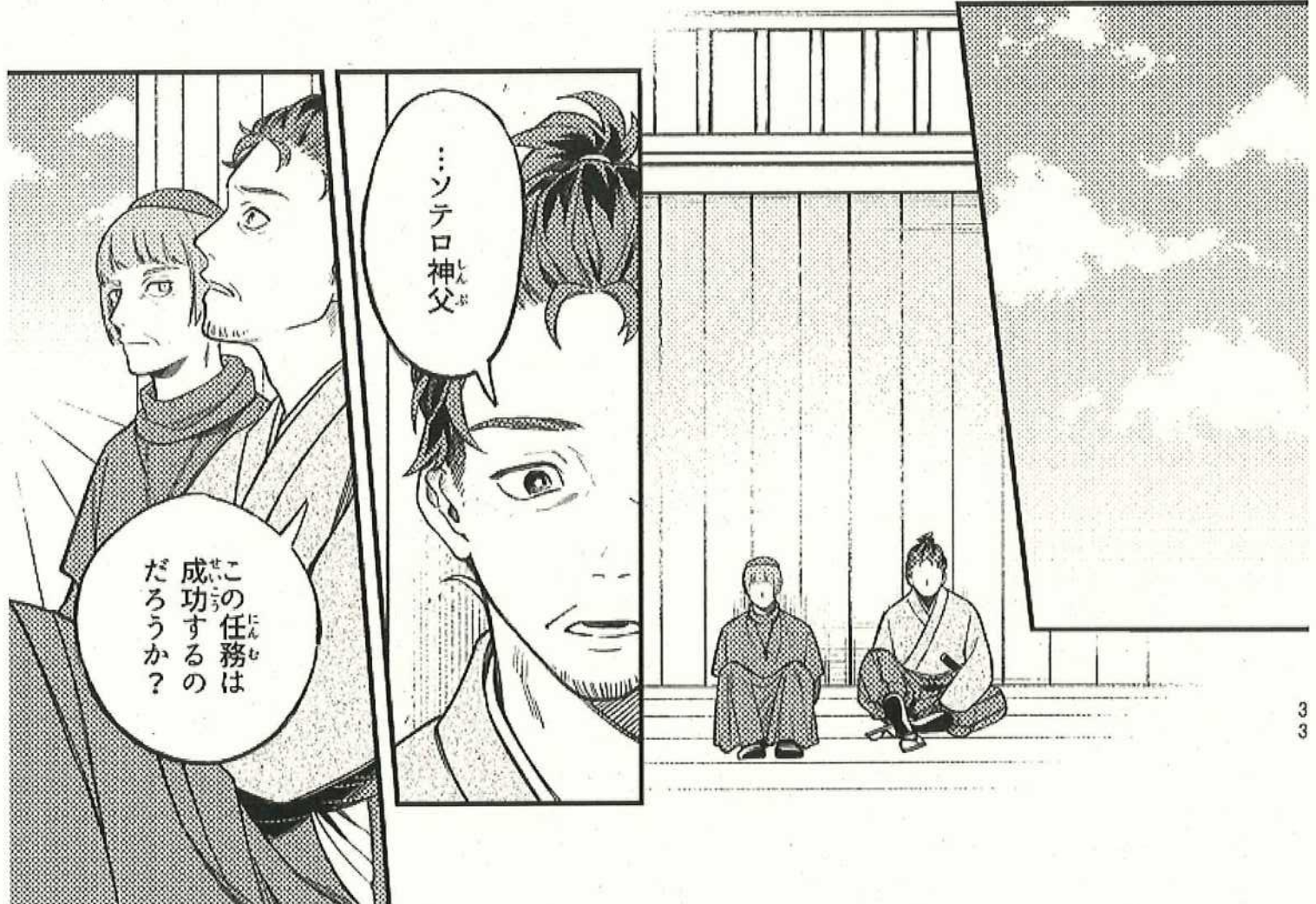




必ずや

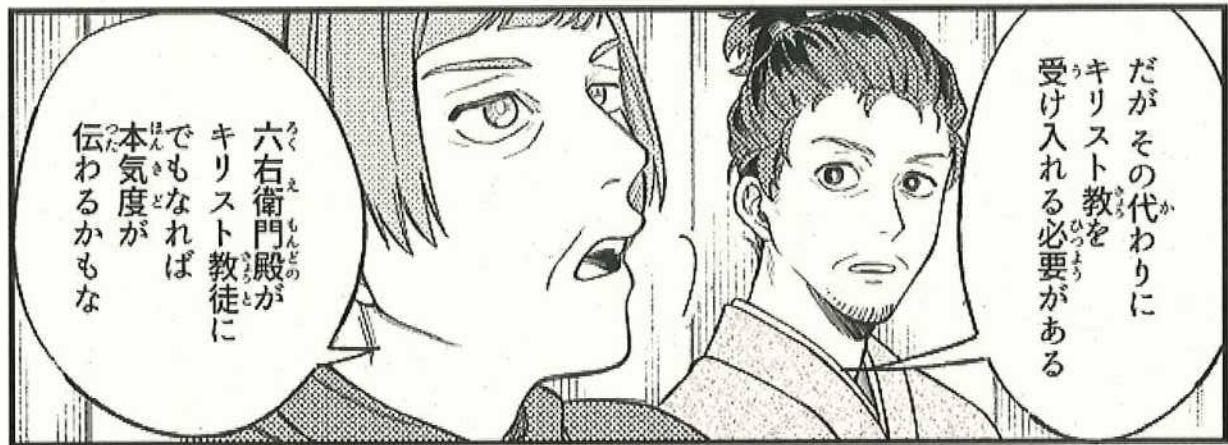


成功させるんだ!!



ソテロ神父

この任務は成功するのだろうか?



※キリスト教や、キリスト教徒のこと。





陸地が見えます!!

大使の護衛隊長  
滝野 加兵衛

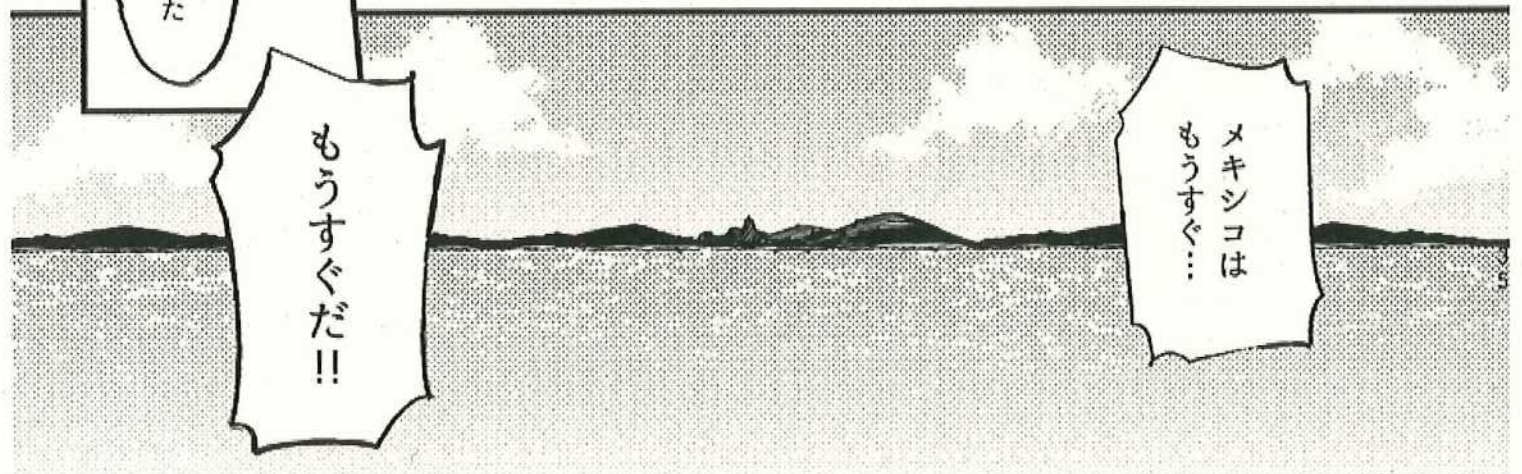


あの陸地に沿って南に向かえば

メキシコのアカプルコです!!

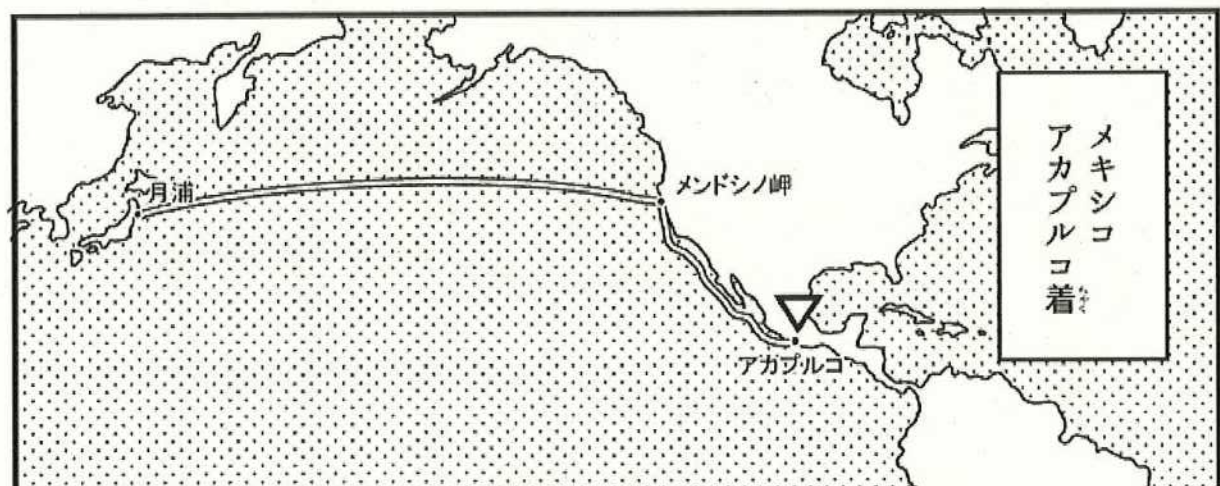
あれは!

長かった



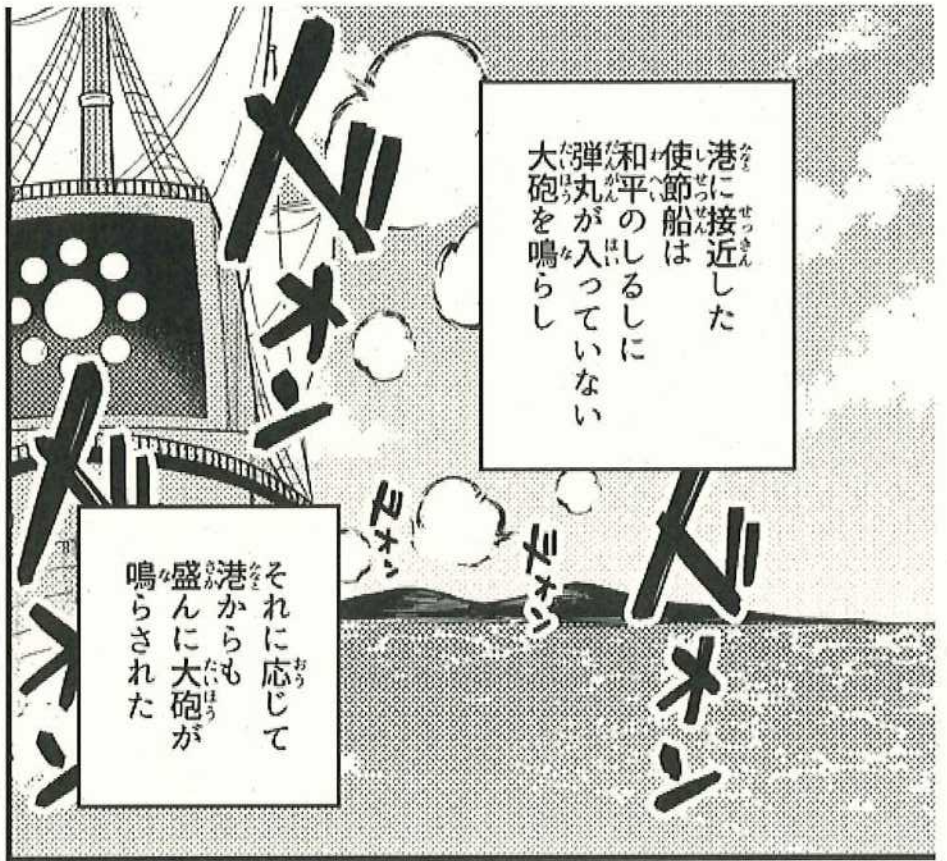
もうすぐだ!!

メキシコはもうすぐ...



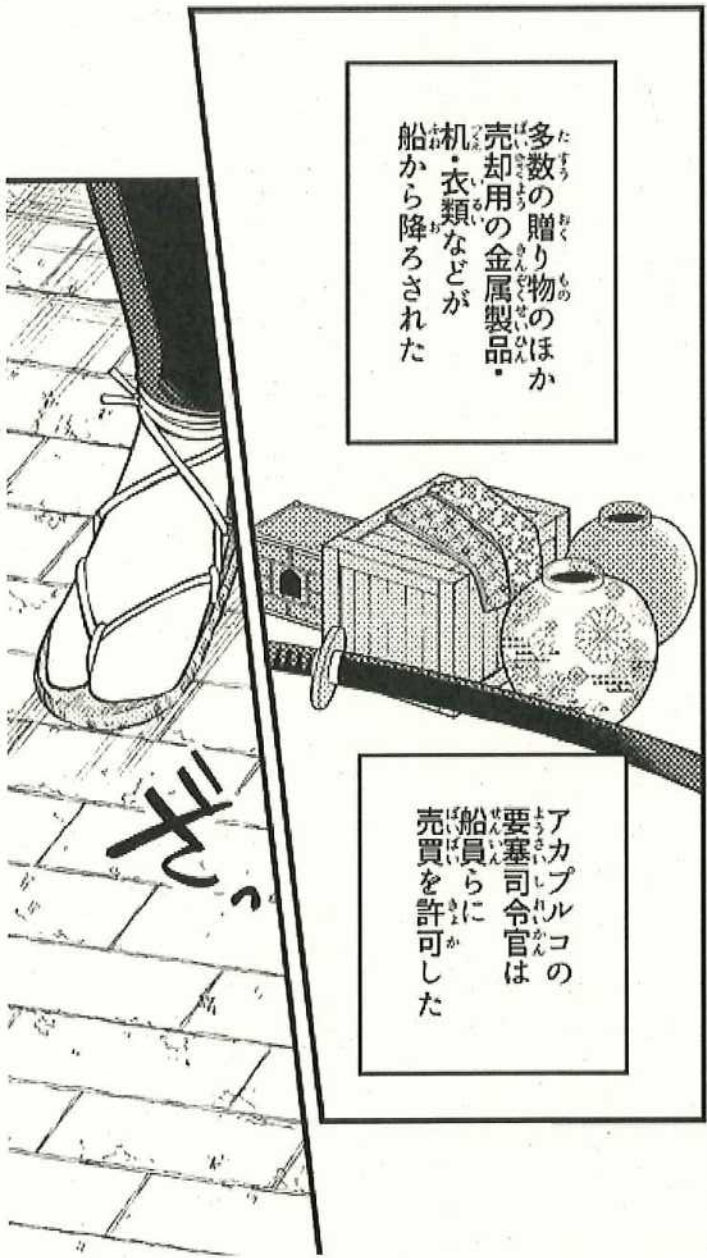


上陸した一行は  
歓迎を受け



港に接近した  
使節船は  
和平のしるしに  
弾丸が入っていない  
大砲を鳴らし

それに応じて  
港からも  
盛んに大砲が  
鳴らされた



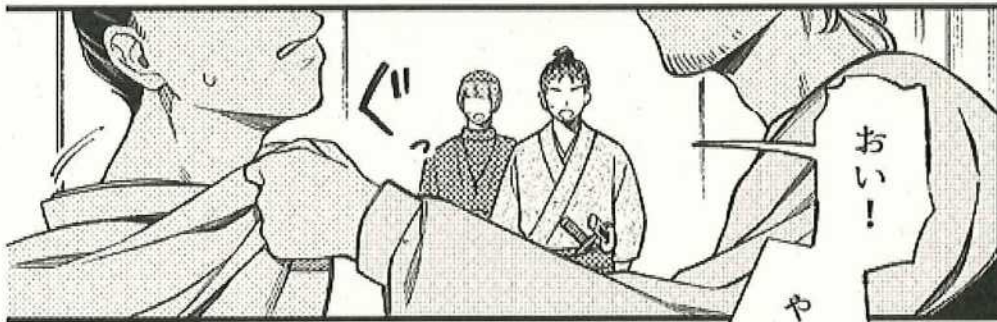
多数の贈り物のほか  
売却用の金属製品・  
機・衣類などが  
船から降ろされた

アカプルコの  
要塞司令官は  
船員らに  
売買を許可した



雄牛祭りや  
祝宴などで  
もてなされた





3月4日

使節一行のうち  
先遣隊20人が



陸路で  
メキシコ市に  
入った

サンファン  
デウルーバ  
メキシコ市  
アカブルコ  
フエブラ

同じ頃

アカブルコで  
いさかいたと？

はい

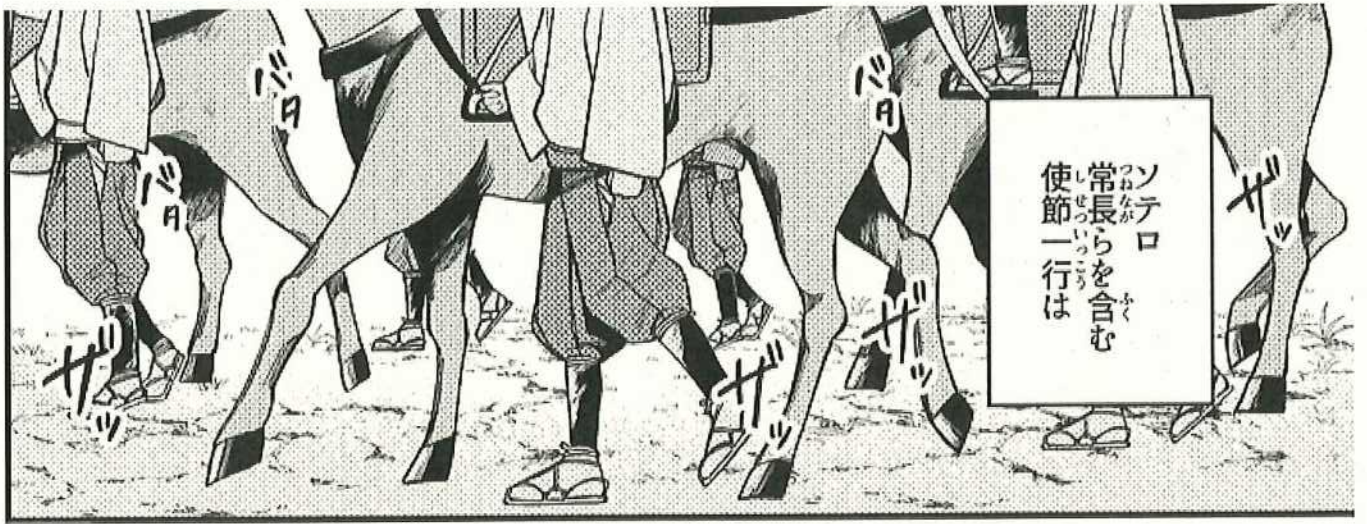
海を渡ってきた  
日本人と住民の間で  
起ったようです

常長を含む10人程度のみ  
武器の携行を許すとの  
決定を下した

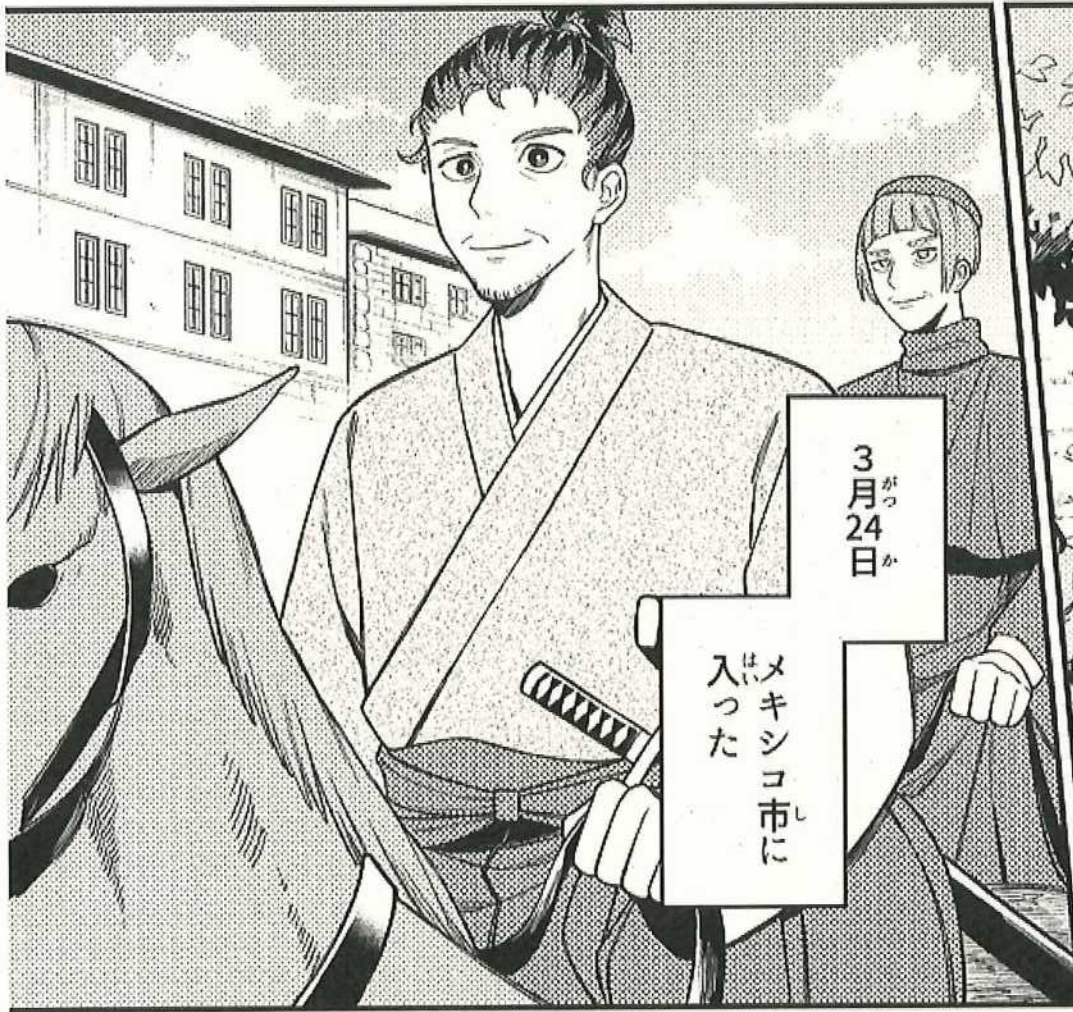
現地の人々にも  
日本人との摩擦を  
引き起こすような  
言動を禁じ  
違反者は処罰すると  
命じた

報告を受けた  
副王は

……



ソテロ  
常長らを含む  
使節一行は



3月24日

メキシコ市に  
入った



道中の町や村で  
歓待を受けながら



4月

多くの日本人が当地の  
サン・フランシスコ教会で  
洗礼を受け  
その人数は80名近くに  
上ったという



王宮  
おうきゆう

副王様  
かきおうさま

こちらが日本から来た  
支倉六右衛門と  
申す者です



私は日本の奥州の王

伊達政宗の  
使者として  
きた者です

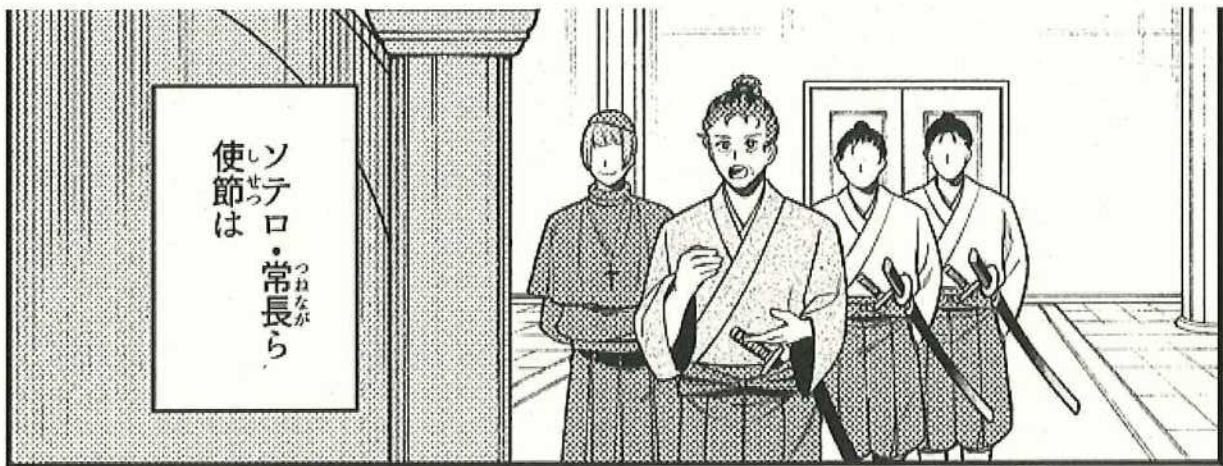
できれば  
スペイン国王に会う前に  
貿易協定の約束を

副王から内々に  
取りつけられれば  
よいのだが...

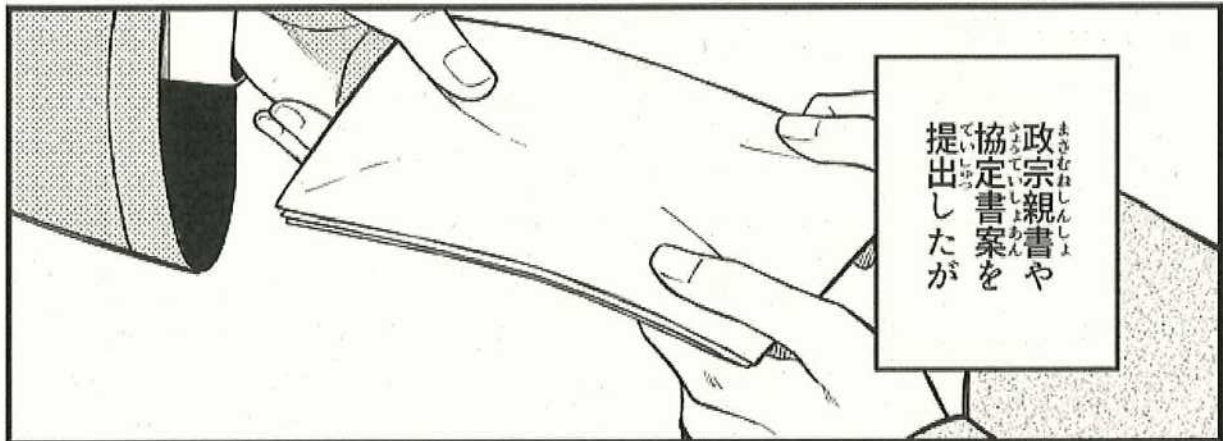


副王様  
かきおうさま

お目にかかれて  
光栄です



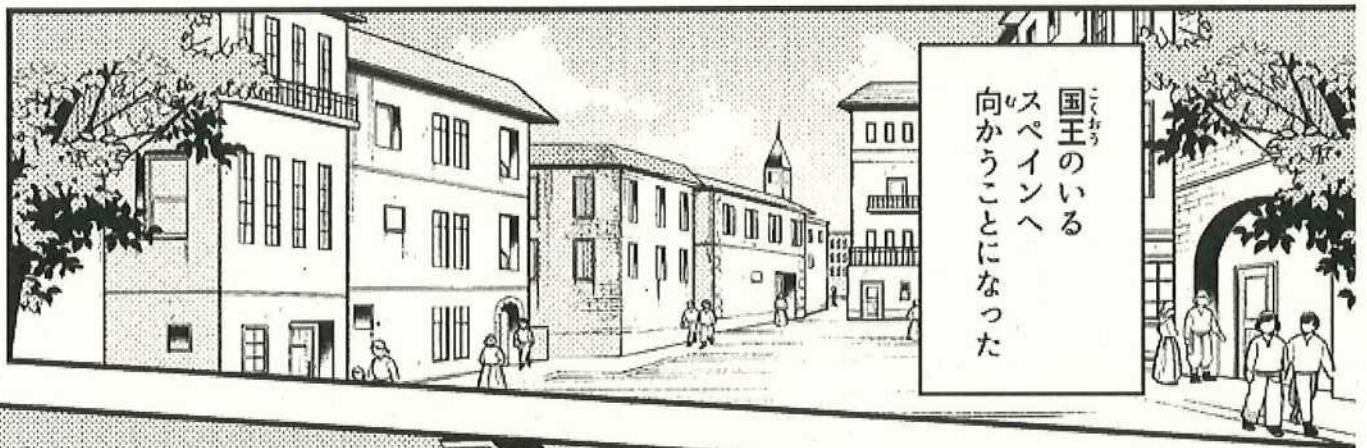
ソテロ・常長ら  
使節は



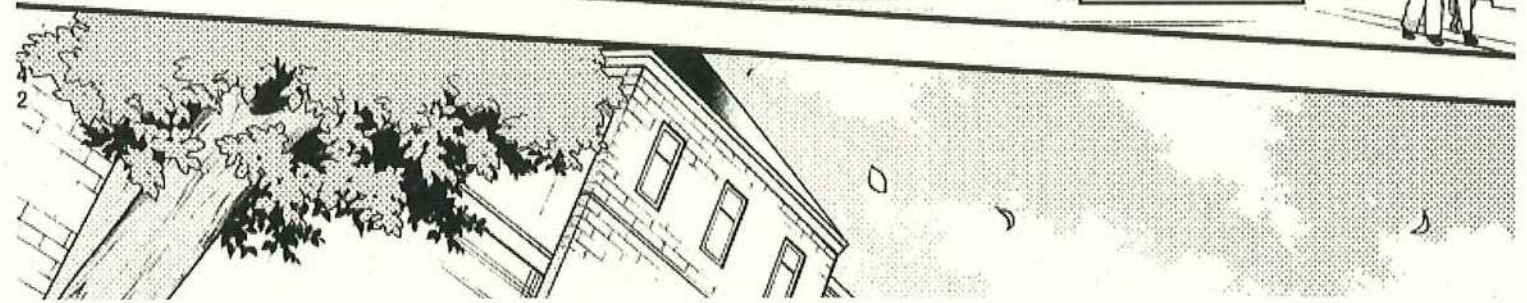
政宗親書や  
協定書案を  
提出したが



副王とは  
具体的な交渉が  
進まず

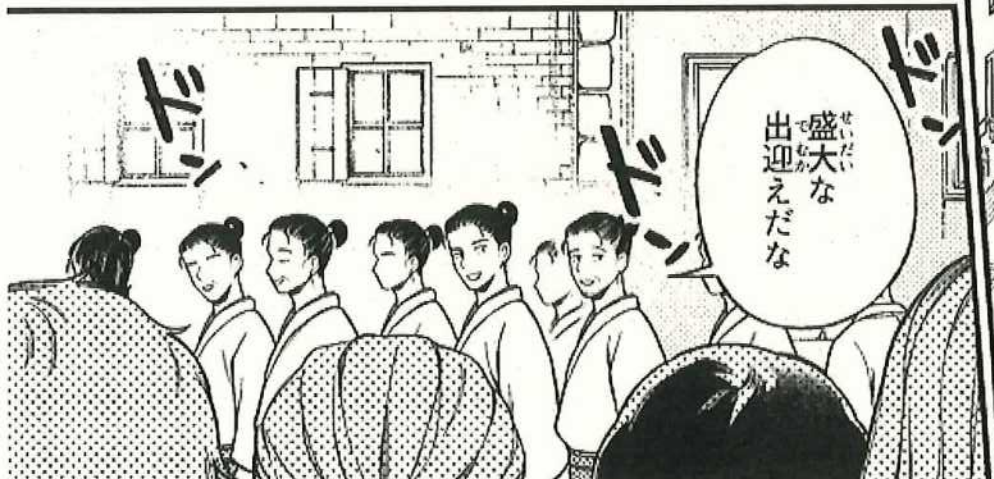
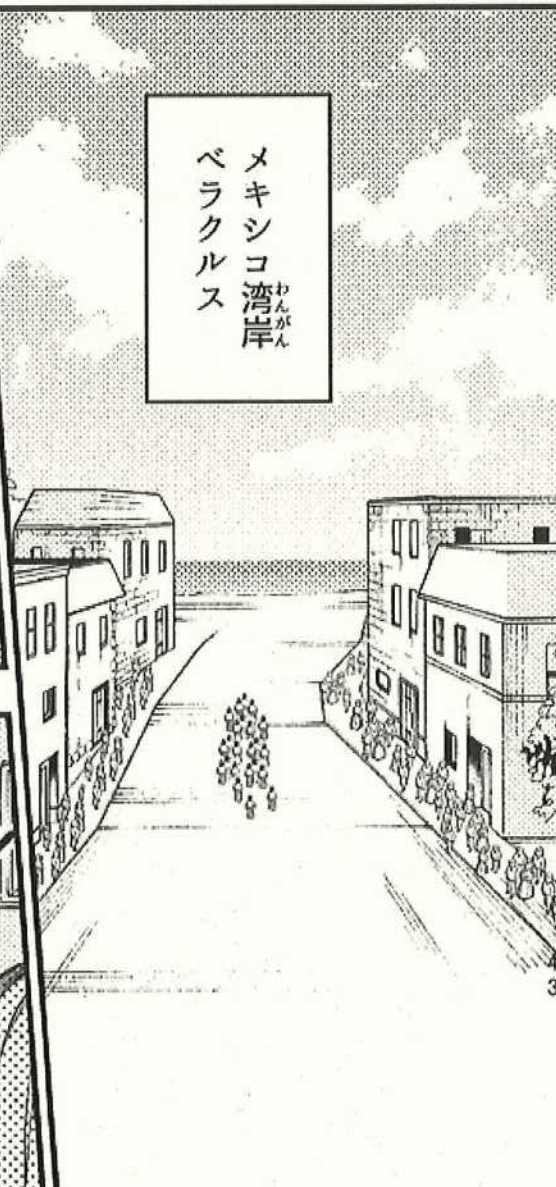


国王のいる  
スペインへ  
向かうことになった





※兵士として日本に住んでいたことがあり、日本語を話せた。





使節一行にとつて  
不利な情報が

日本国内から  
スペイン・ローマに向けて  
次々と発信されていた

一方——

なに？



それが  
本当なら

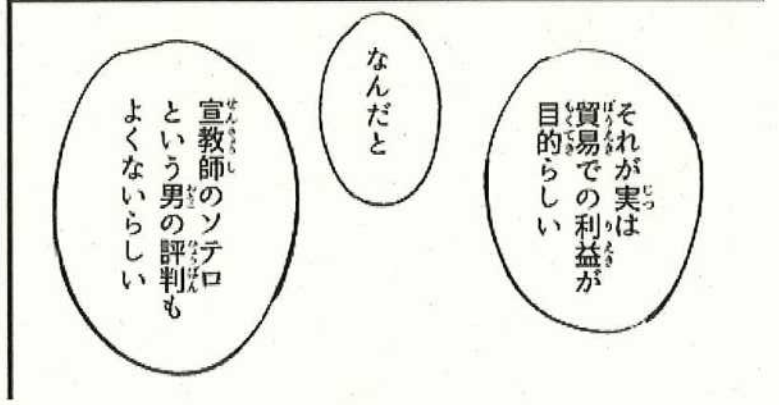
慎重に  
考えなくては



日本で  
禁教令だと？

クリシタンの  
取り締まりが  
行われている  
ようだぞ

奥州王は信仰のために  
使節を送ったって  
話じゃなかったか？



それが実は  
貿易での利益が  
目的らしい

なんだと

宣教師のソテロ  
という男の評判も  
よくないらしい



ここから先  
スペインには我々が  
お送りいたしましょう



あなたが  
日本人の大使  
ですか？



ありがたい  
ことだ

なんと！



スペイン国王の  
側近らに  
書状をしたためて  
いる

ソテロと常長は  
今後の外交が  
うまくいくよう



大西洋の  
航海中



船の中でも  
スペインでの  
外交交渉の準備を  
進めていったのであった



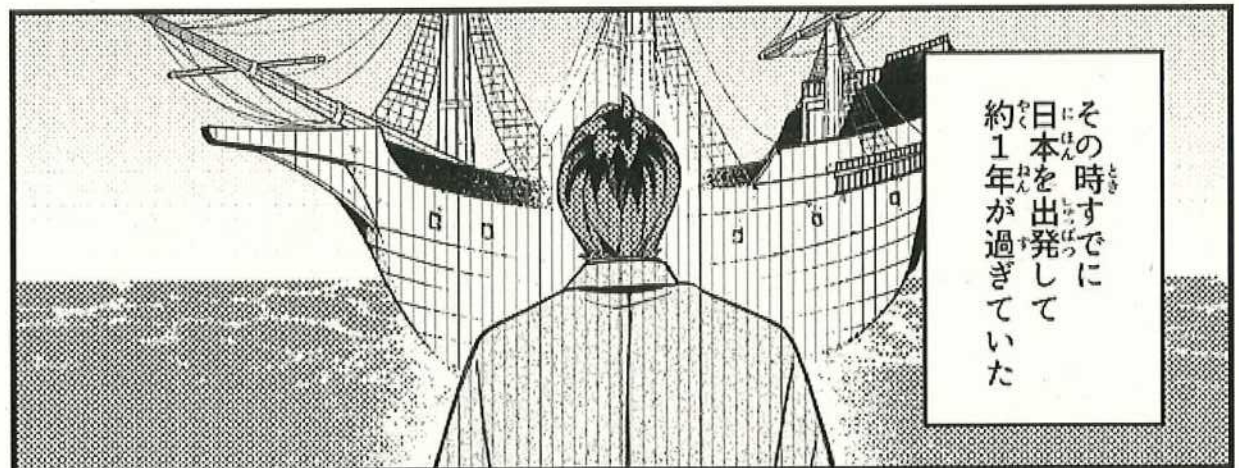
10月

スペインの西南岸  
サンルカール・デ・  
バラメダに入港

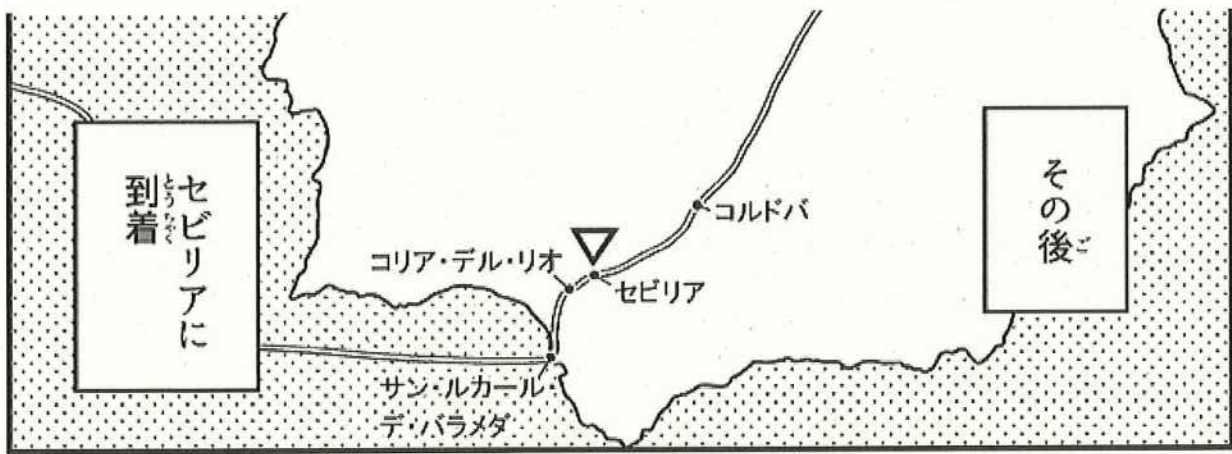


スペイン  
上陸だ!!

つねなが  
常長らは  
大西  
西洋横断を  
無事に成し遂げた



その時すでに  
日本を出発して  
約1年が過ぎていた



市長をはじめ  
大勢の貴族や  
市議会議員らの  
出迎えを受ける



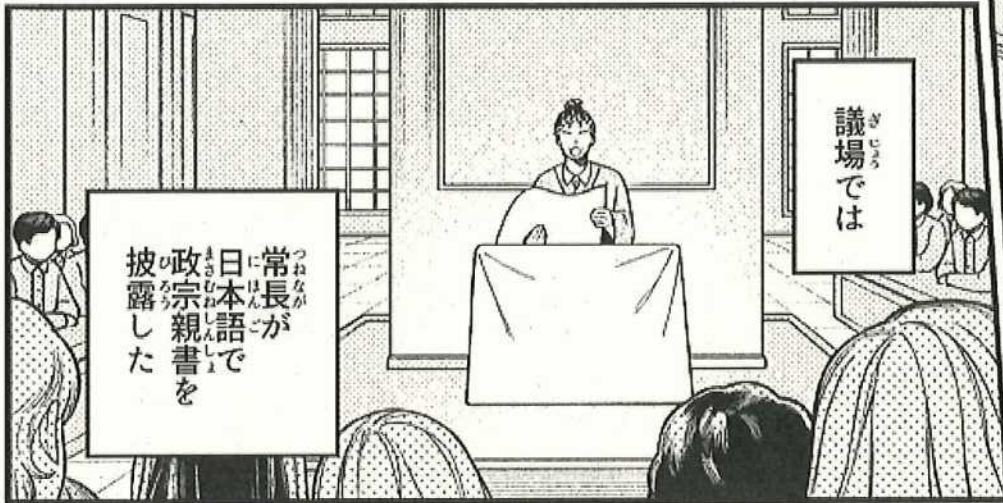
南蛮人たちにも  
日本人が受け入れ  
られているのか...

10月27日

セベリア市の  
議会が開かれる

議場では

常長が  
日本語で  
日本親書を  
披露した



ソテロ神父からキリスト教の教えを聞き  
その通りだと思いつつも諸事情により  
キリスト教徒になれないでいるが

我が領民をキリスト教徒とするために  
ソテロ神父と支倉六右衛門を渡海させる

ソテロ神父の故郷であるセベリア市は  
重要であると考え感謝とお礼を述べ  
贈り物を送るのでスペイン国王と

ローマ教皇が我らの望みを  
叶えてくれるよう配慮をお願いしたい

そちらには航海術に長じた  
航海士がいると聞いているので  
日本からセベリアへ行くことが  
可能か相談できれば毎年渡海したい

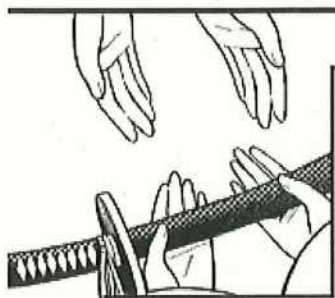
次いでソテロが  
この旅の経緯と  
日本の情勢

今後の  
旅程を説明



そこで  
セベリア市にも  
お力添えを  
いただきたいの  
ですが…





政宗からの贈り物である太刀と短刀が呈上された

大使の護衛隊長である滝野加兵衛によって

その後

一行が順調に進めるよう全面的に配慮する

スペイン語に訳された政宗親書が読み上げられた

最後に書記官によって

奥州王のキリスト教への態度と要望に敬意を払う

ご希望に添えるように努力いたします





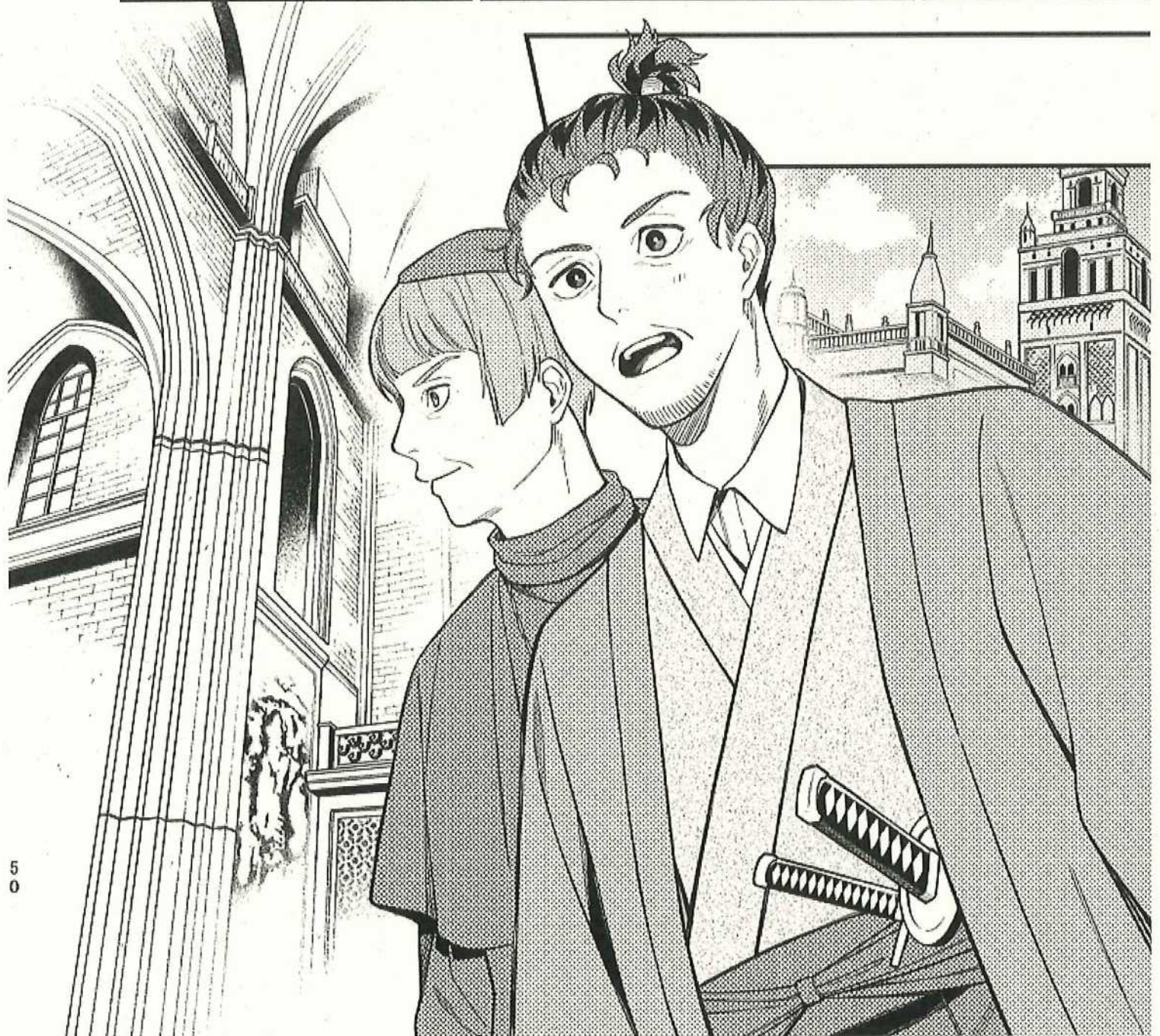
とりあえず  
セビリアを  
見て回りましょう

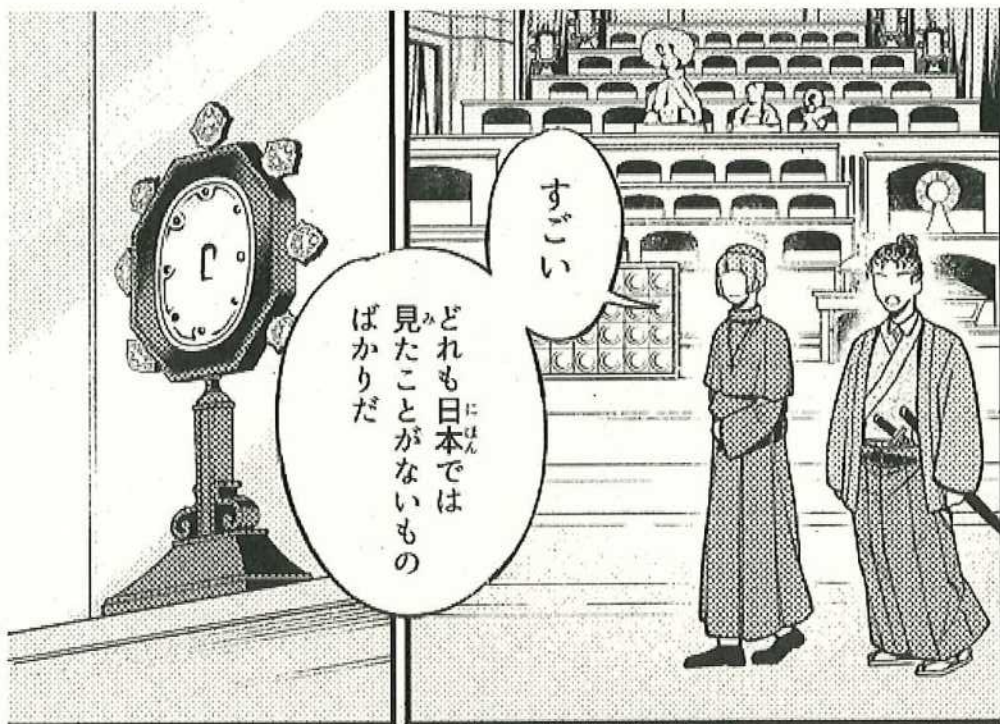


まあ気楽に  
いきましよう

議場の反応は  
非常に良かったが

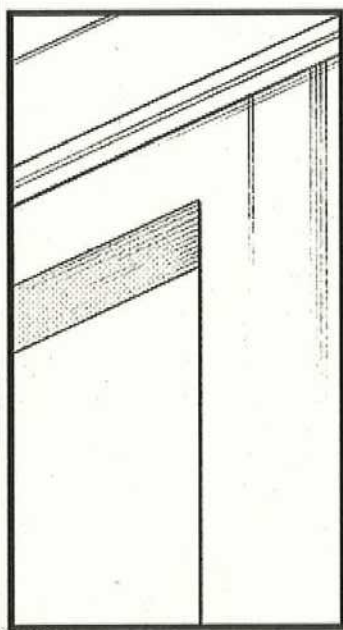
あとは  
スペイン国王が  
どうするか  
にかかっているな...





すごい

どれも日本では  
見たことがないもの  
ばかりだ



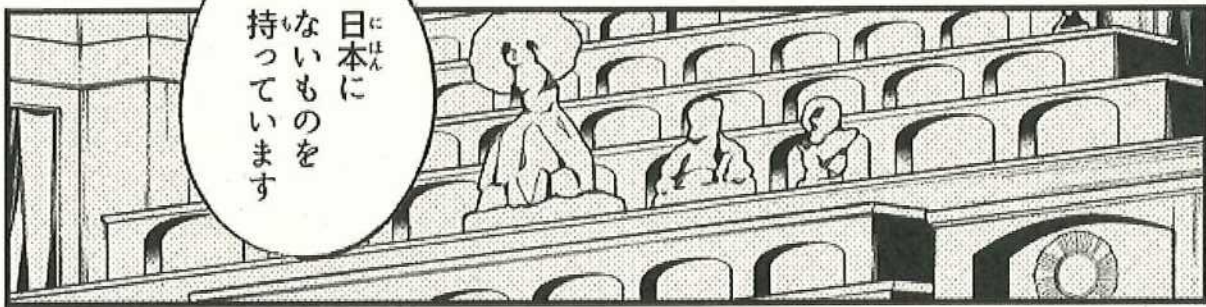
おお!!

これは  
ぜっけい  
絶景だ!!





たしかに  
南蛮は



メキシコと定期的に  
貿易を行う  
協定の約束を…



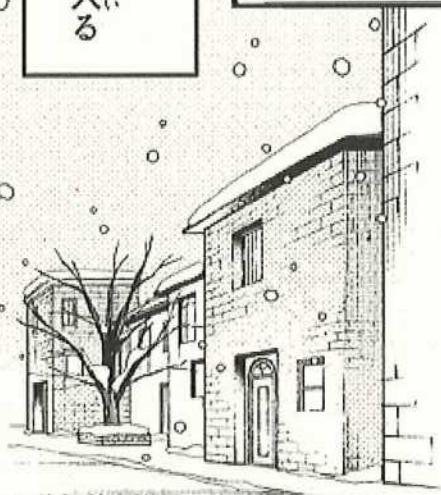


いよいよ  
スペイン国王のいる  
マドリッドですぞ

そうだな…

12月

首都  
マドリッドに入る



貴族・領主・  
騎士らが多く訪れ

多くの祝儀と  
贈り物が常長らに  
贈られた

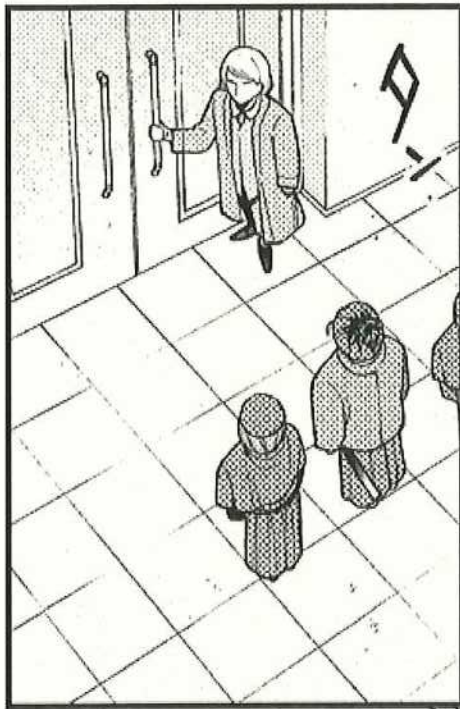


宿舎  
サン・フランシスコ  
修道院のもとには



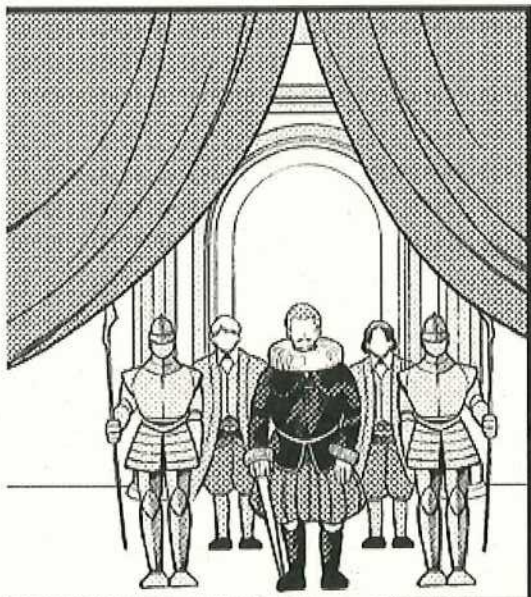
スペイン国王の  
執事・司祭長  
国王の名代も訪れ

無事の到着を祝し  
国王が満足している  
旨を伝えた



1615  
元和元年

1月30日



つねなが さい  
常長 46歳



スペイン国王に  
謁見

スペイン国王  
フェリペ3世

話を聞こうか



ふむ  
日本人がわざわざ  
スペインに来るとは  
珍しい



奥州の王は  
スペインとわが国の  
定期的な貿易を  
望んでおります



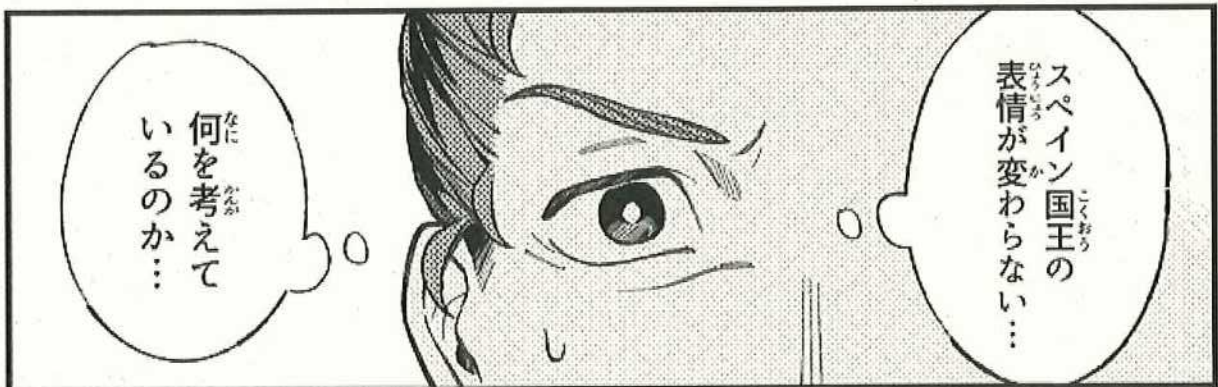
日本の奥州の王  
伊達政宗の  
使者として  
きました

支倉六右衛門  
と申します



起立なさい

はい

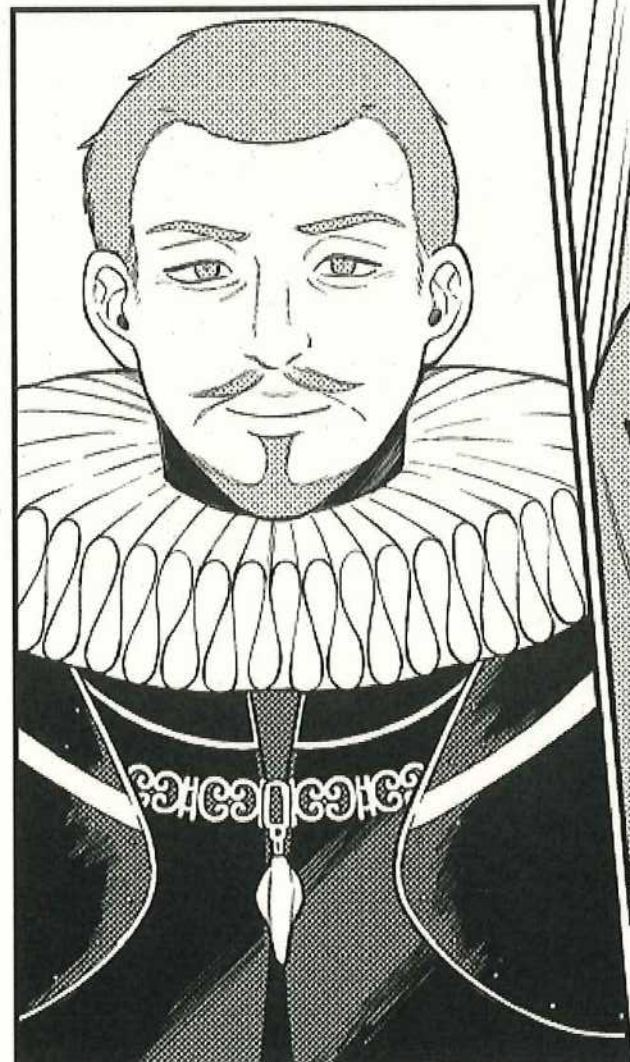
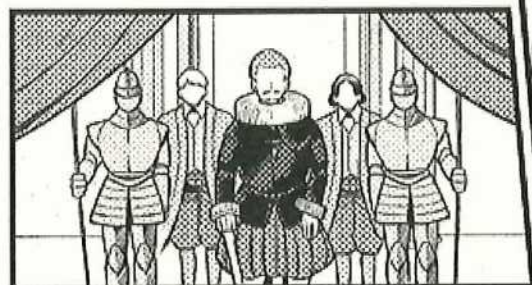




.....

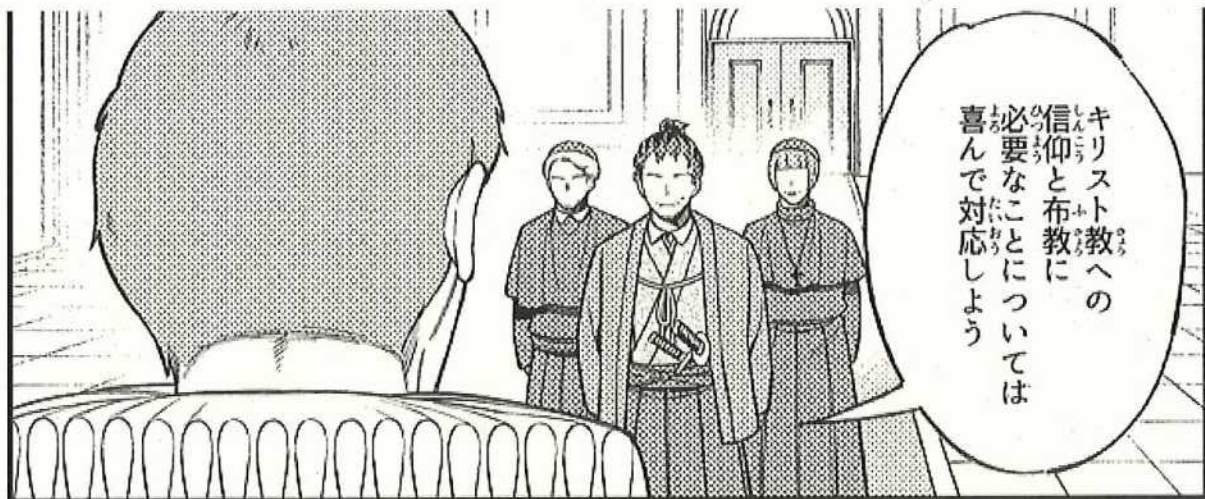


どうだ国王...



ぜひ国王様の  
立ち会いのもと

私をキリスト教徒に  
思っただけならばと  
思っております!!



キリスト教への  
信仰と布教に  
必要なことについては  
喜んで対応しよう



我らの立ち会いのもとで  
キリスト教徒に  
なりたいという願いには  
私も満足だ

希望通りに  
手配しよう



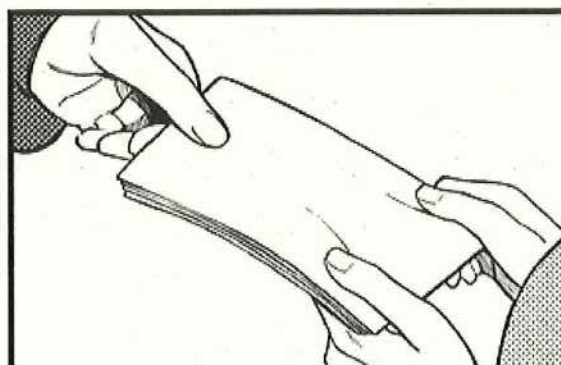
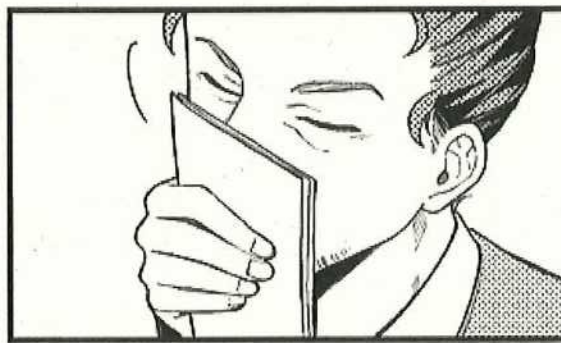
それ以外の  
協定事項は  
機会をみて改めて  
検討することにする



とても  
気に入ったぞ



そなたの  
真摯な態度



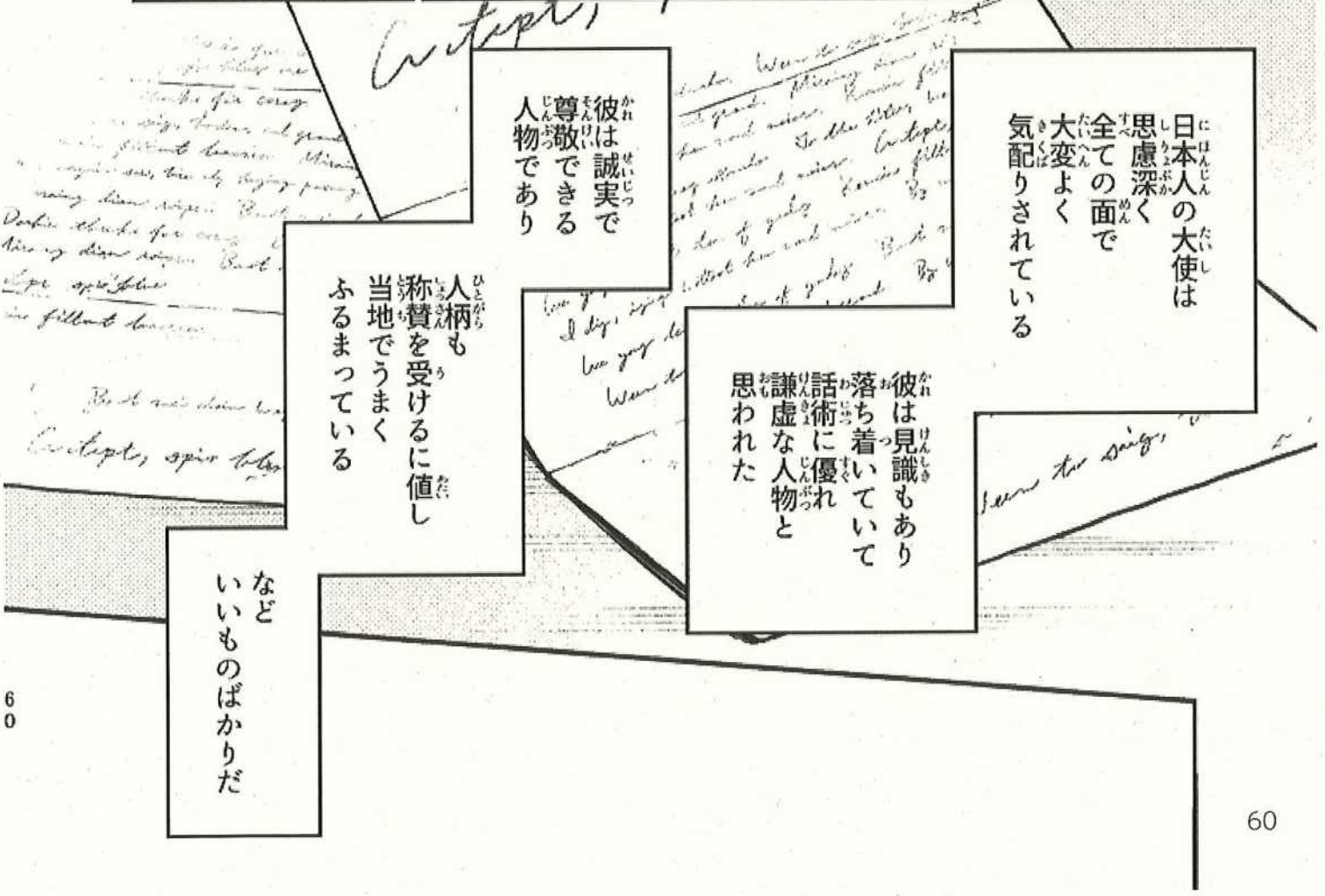




生涯しょうがいにわたって  
王室おうしつの繁栄はんえいを  
お祈りいのりいたします

国王こくおうの名なを冠かんした  
キリスト教徒きりすとけうと  
フェリペ・フランシスコ  
支倉六右衛門はせくらくえもんの  
誕生たんじゆうである

彼の  
スペインでの評判へうばんは



日本人にほんじんの大使たいしは  
思慮しりよ深く  
全ての面めんで  
大変たいへんよく  
気配きはいりされている

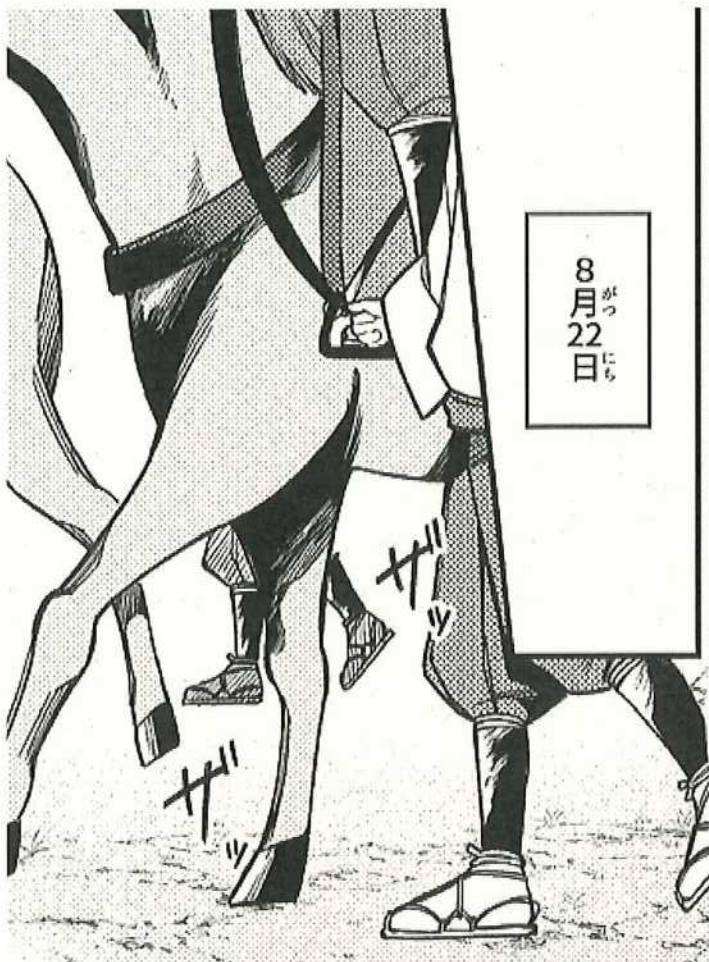
彼は見識けんしきもあり  
落ち着おちつきいていて  
話術わがじゆつに優すぐれ  
謙虚けんこな人物じんぶつと  
思おもわれた

彼は誠実せいじつで  
尊敬そんけいできる  
人物じんぶつであり

人柄ひとがらも  
称賛しょうさんを受けるに値たし  
当地当地でうまく  
ふるまっている

など  
いいものばかりだ





8月22日



スペイン国王や  
重臣たちも  
キリスト教徒だ

世界の信徒を  
束ねる教皇から  
支援を受けられれば  
交渉の役に立つはず…



一行は  
約8ヶ月滞在した  
マドリードを出発



ローマへと  
向かうのであった



やってきたぞ!

黄金の国  
日本からの  
使いだ!

!



日本人は皆  
背が低いな

肌が黄色で  
目が小さくて  
くぼんでいる

鼻が低くて  
鼻の穴が大きいし  
額が広いね

頭髪の後ろを  
白いひもで結んで  
小さなしっぽの  
ようになっているな

食事のときは  
2本の木の棒を  
3本の指を使って  
食べるんだって

※その他にもヨーロッパでは、寝る時は裸になる、長い剣と短い剣を肌身離さず持っている、それも切れ味がすごい、日本語以外は話せない、教会ではとてもまじめで恐ろしく真剣な態度という生活の様子が記録されている。



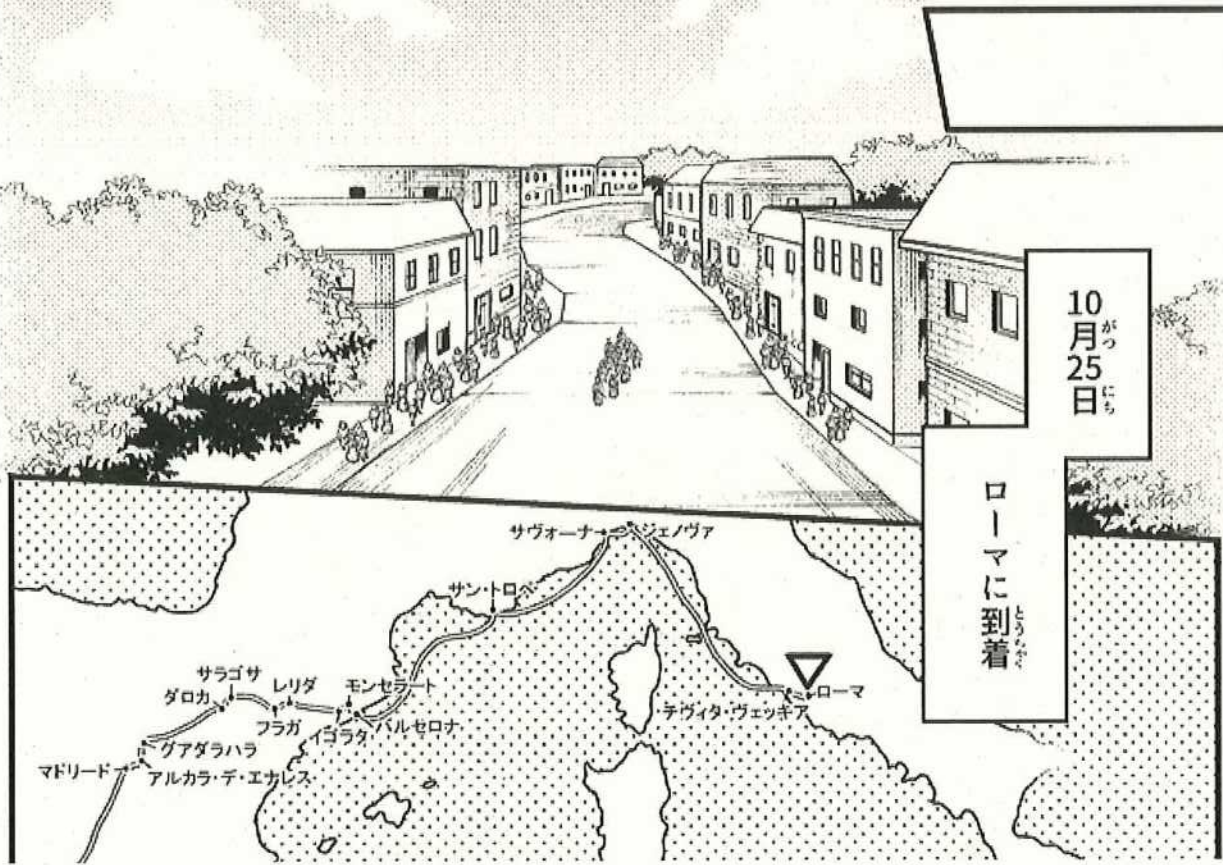
日本人が  
何か捨てた...



ホイッ



※たたくで懐の中に入れておく紙





10月29日

ローマ教皇の  
希望により

ローマ入市式が  
行われた



ラツパ手を含む  
50騎ほどの  
近衛兵らを  
先頭に

各国大使の一回  
貴族ら

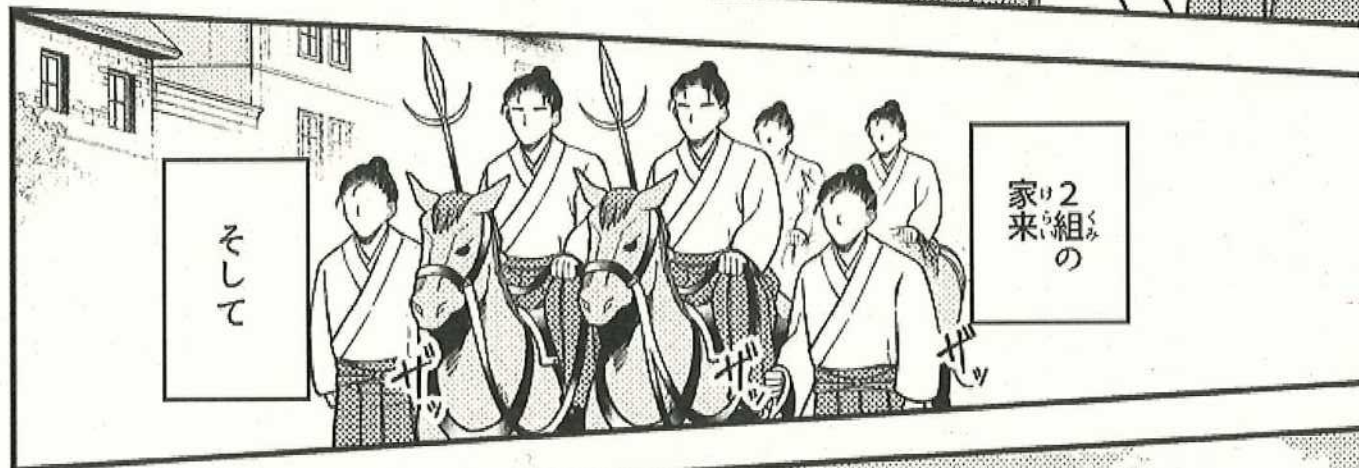


常長の従者  
小姓たちが続く



ヴェネツィア出身の通訳  
グリゴリオ・マティアス

その後ろには  
滝野加兵衛ら  
4人の武士と

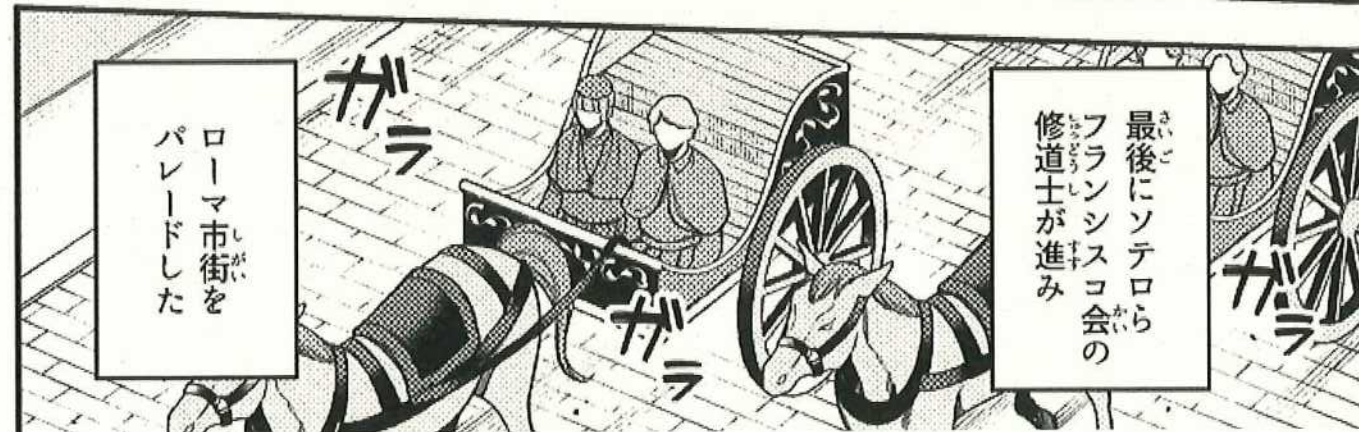


そして

2組の  
家来

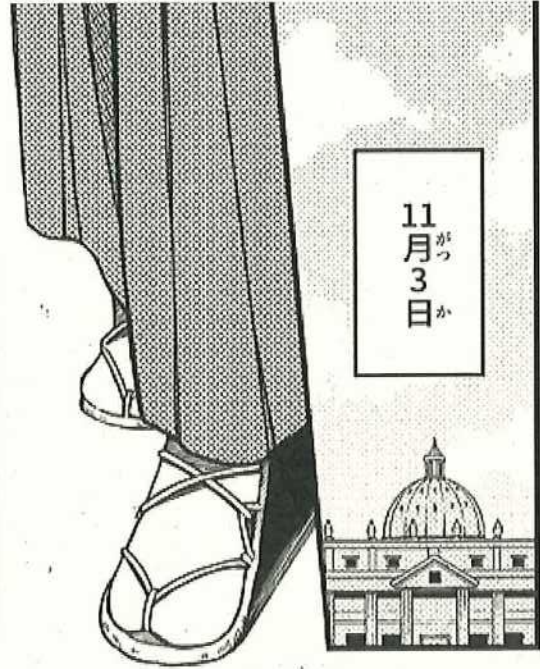


常長と  
ローマ教皇の甥、  
スルモーナ公爵が続き

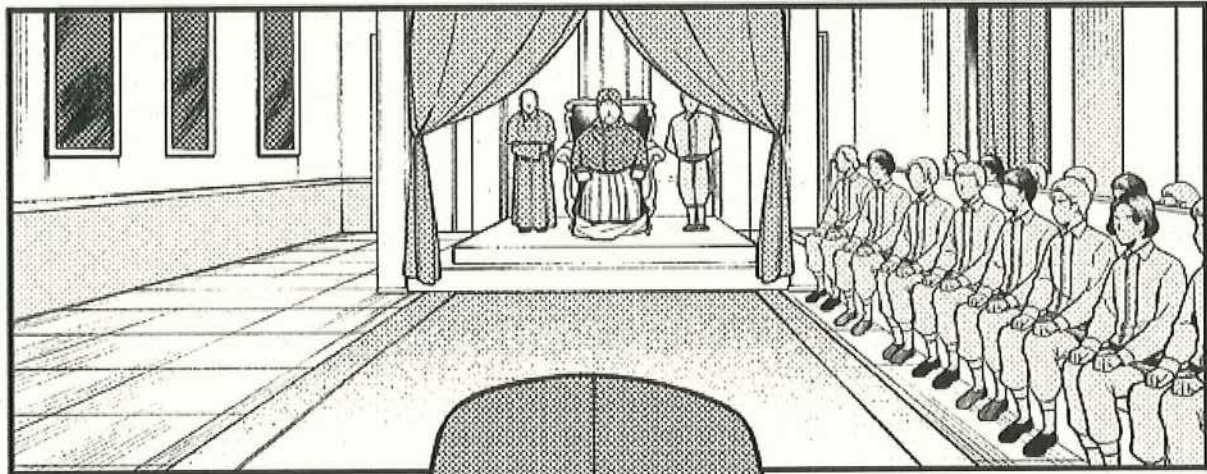


ローマ市街を  
パレードした

最後にソテロら  
フランシスコ会の  
修道士が進み

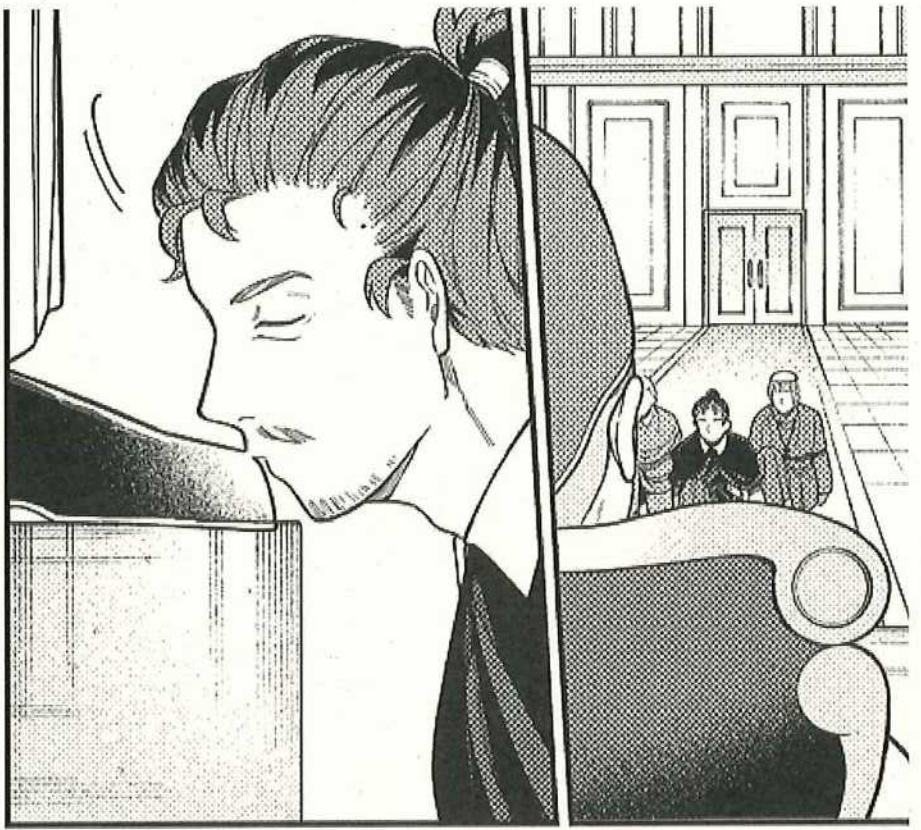


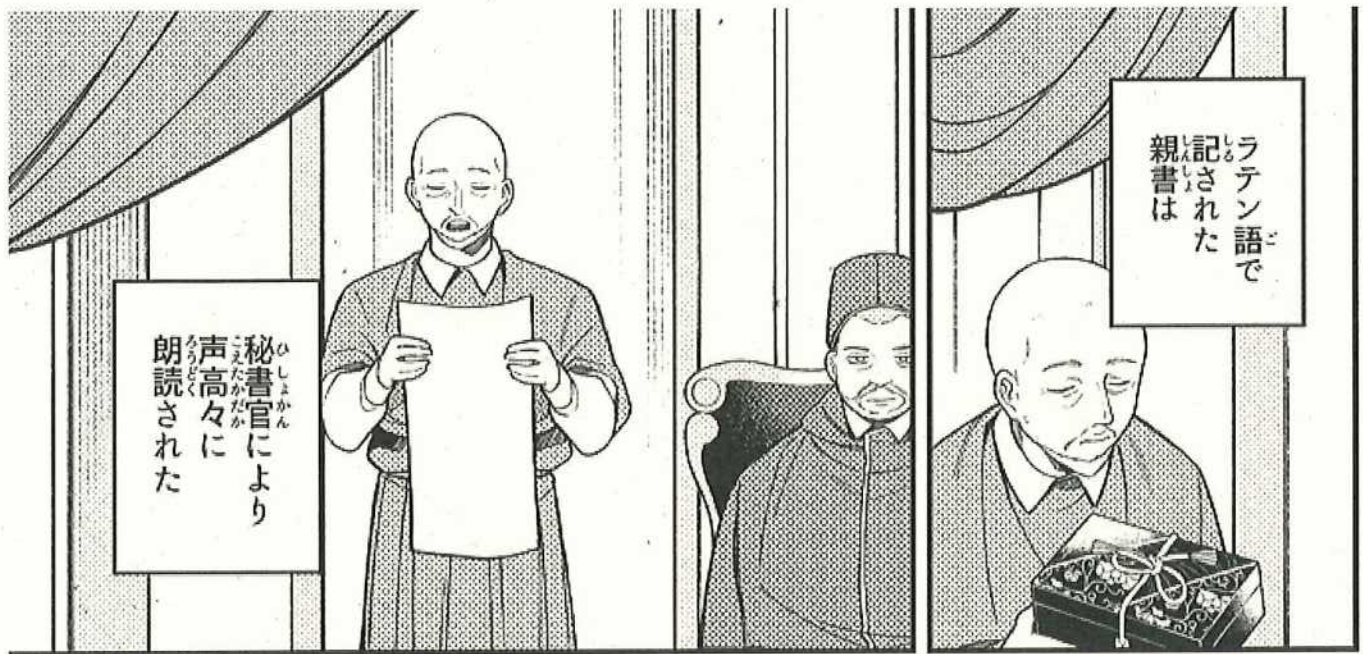
11  
月<sup>がつ</sup>  
3  
日<sup>か</sup>



ローマ  
教皇<sup>かとうこう</sup>に  
謁見<sup>えつけん</sup>

ローマ教皇<sup>かとうこう</sup>  
パウルス5世<sup>せい</sup>





秘書官により  
声高々に  
朗読された

ラテン語で  
記された  
親書は



また同日

11月15日

滝野加兵衛・  
伊丹宗味・  
野間半兵衛の3名が  
ソテロとともに畿内の  
日本人キリシタンの  
代表として教皇に謁見

常長の秘書官  
小寺外記が  
洗礼を受ける



常長は  
貴族にも  
列せられている



11月20日

常長をはじめとした8名に  
ローマの市民権が与えられ



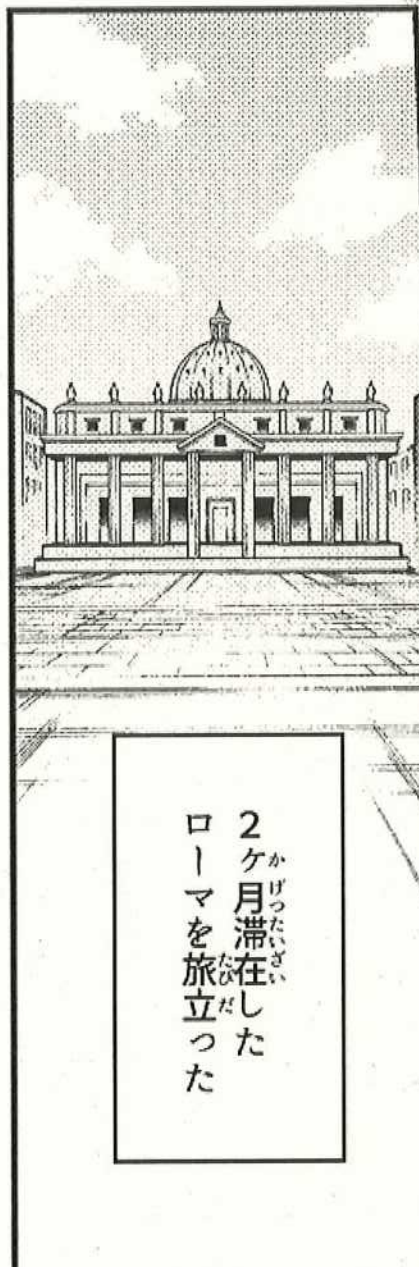
スペインに戻って  
国王に再び  
掛け合わなければ

そのすべてに  
スペイン政府との  
再交渉が  
必要とされたが

政宗親書に  
記されている  
要望内容については



ローマ教皇からは  
おおむね前向きな  
返答を得ることが  
できた



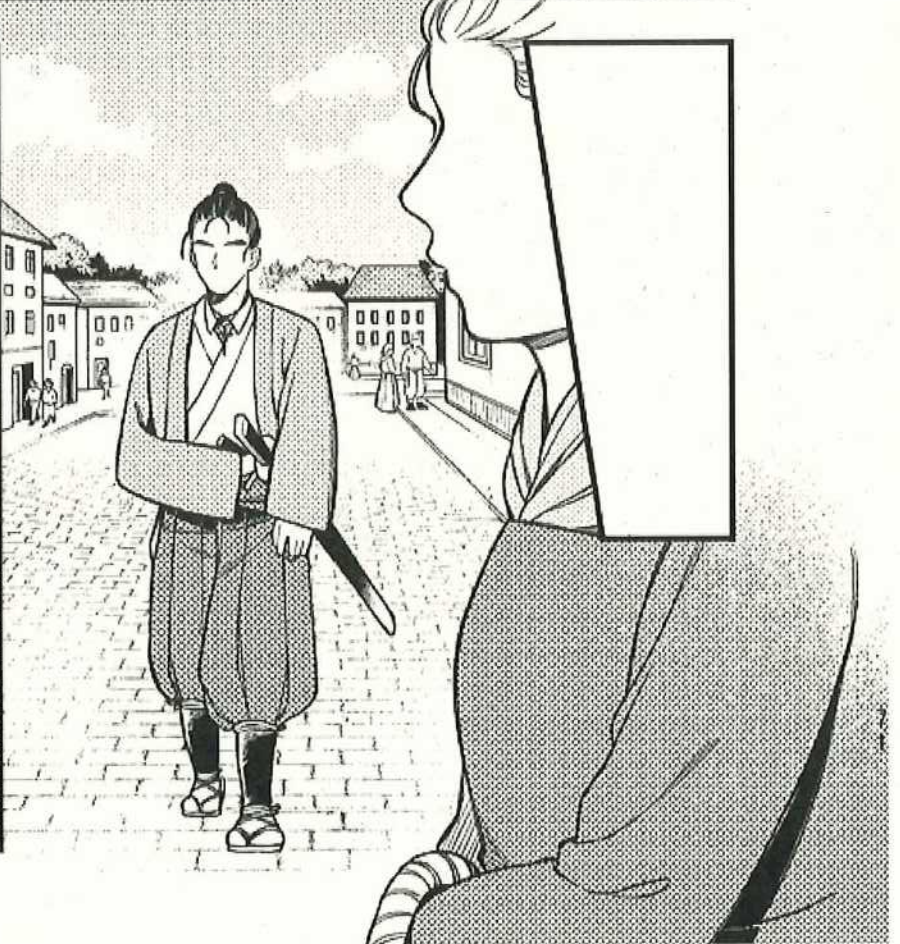
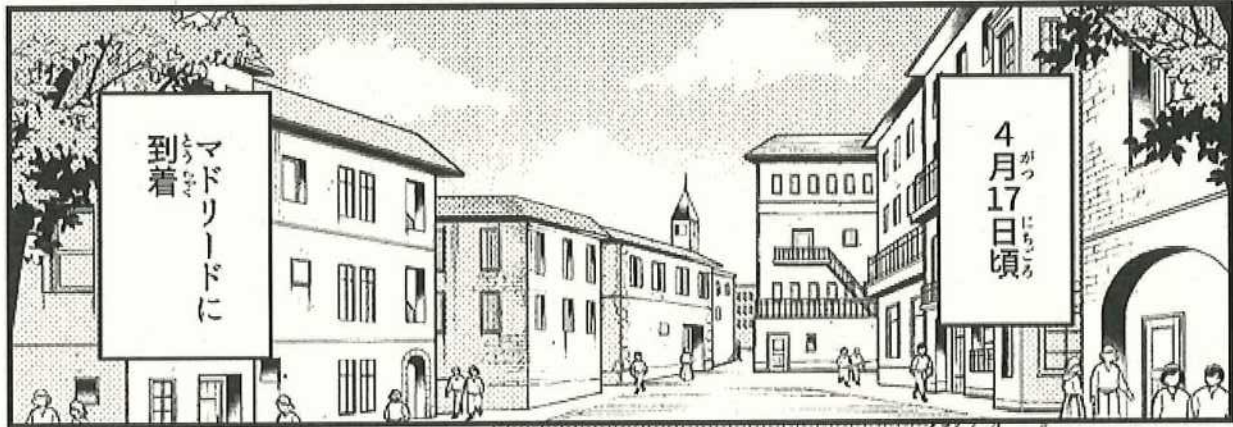
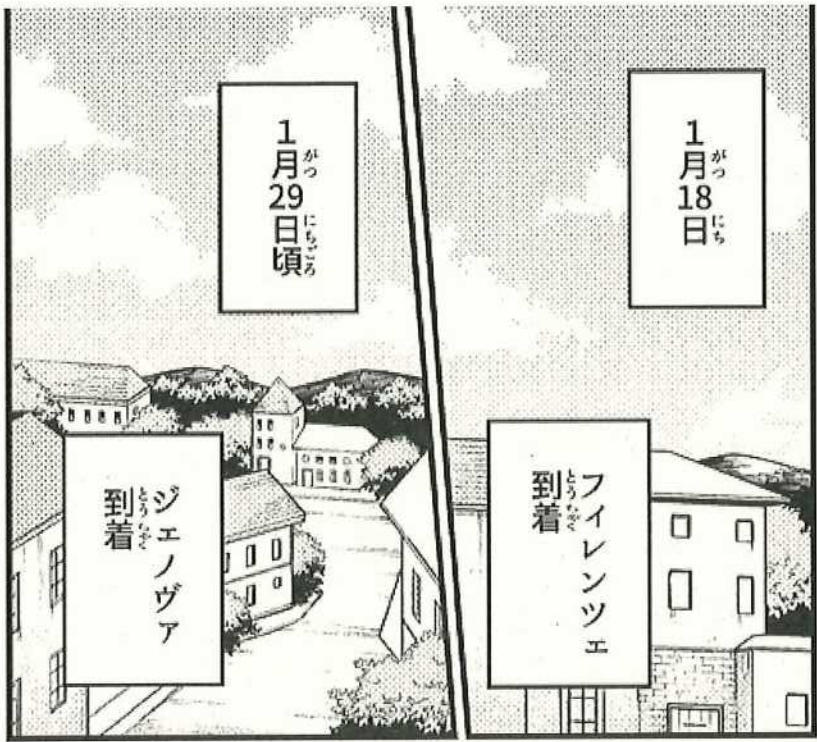
2ヶ月滞在した  
ローマを旅立った



1616  
(元和2)年  
1月7日

使節一行は  
再度スペイン政府と  
交渉するため

つねなが 常長 47歳

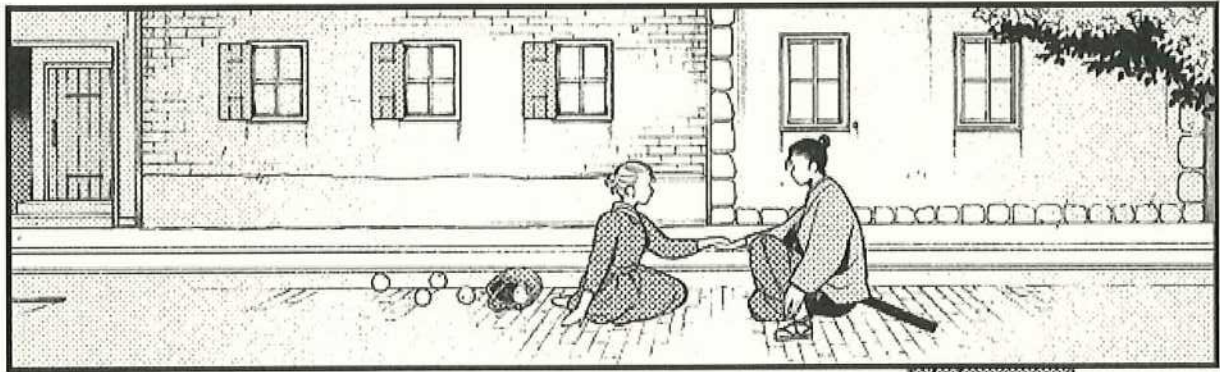




すまない  
大丈夫か

すみません  
よそ見を  
していて…

はい



日本での  
クリンタン迫害の  
状況を考慮して

スペイン国王との  
交渉は延期すべき  
だと考えている

会議室

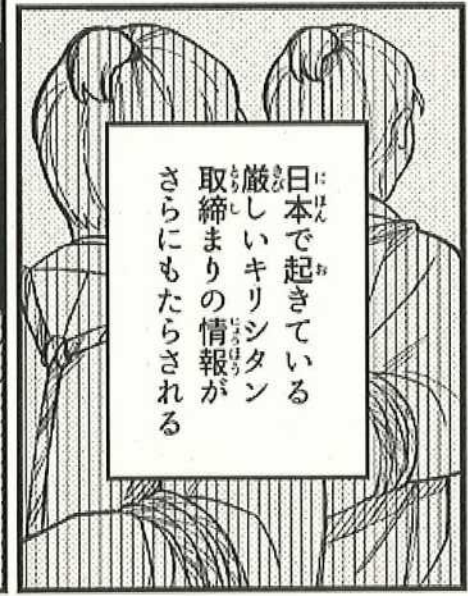
教皇様からは  
好意的なお返事を  
していただいたが







国王からの  
返事を待った  
常長らであったが



日本で起きている  
厳しいキリシタン  
取締まりの情報が  
さらにもたらされる



ついには  
帰国の命令が  
出されてしまう  
のであった

貿易に対する  
明確な許可は出ず



私たちがだけでも  
もう少し待つと  
しましょう



……  
それでは  
仕方がない



……このまま  
日本に帰れる  
わけがない

伊達政宗に対して  
使節派遣とキリスト教の保護への感謝  
その喜びを示すため  
使節のスペイン・ローマへの旅と  
帰国までの厚遇を命じた  
そして伊達領にいる  
キリシタンらへの厚遇を切望する  
また日本の皇帝宛の書簡を  
別にしたためる

国王返書を  
発行するよう  
方針を転換する

常長らの  
乗船拒否の一報を受けた  
スペイン政府は

回答に満足しなかった  
常長らは

さらに  
スペイン残留を  
決意する

このまま  
使命を果たさずには  
帰国できない

その頃

……

これまで  
積み重ねてきた  
外交交渉への  
返答が全くない……



…もう  
無理なのだろうか



日本では禁教令の影響で  
度重なるキリスト教徒への  
取締まりがさらに強化された

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document related to the plot.



私はまだ  
諦めません



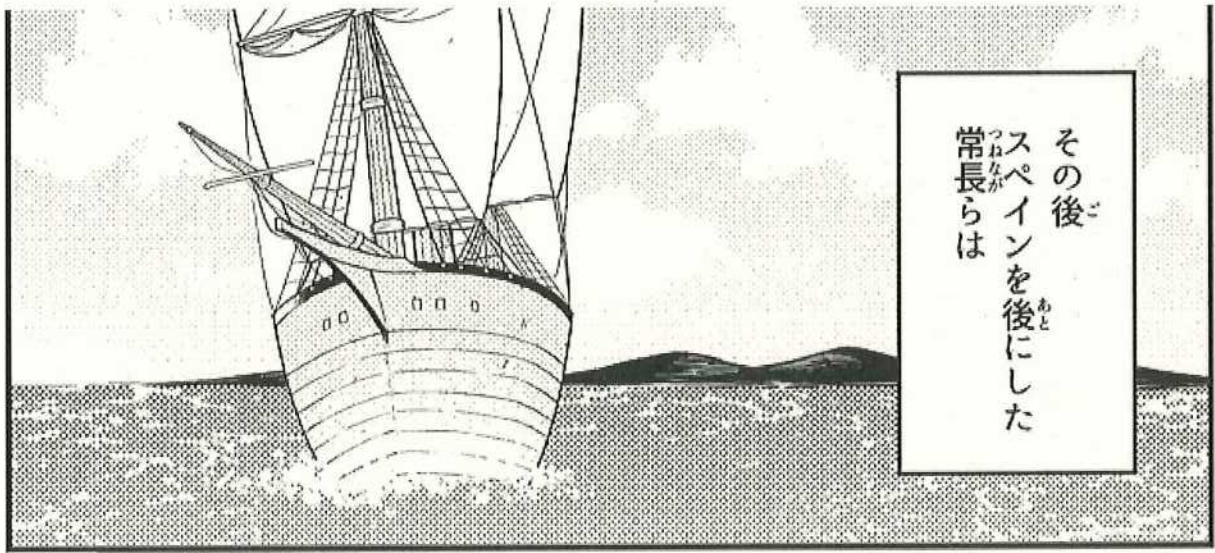
御屋形様…



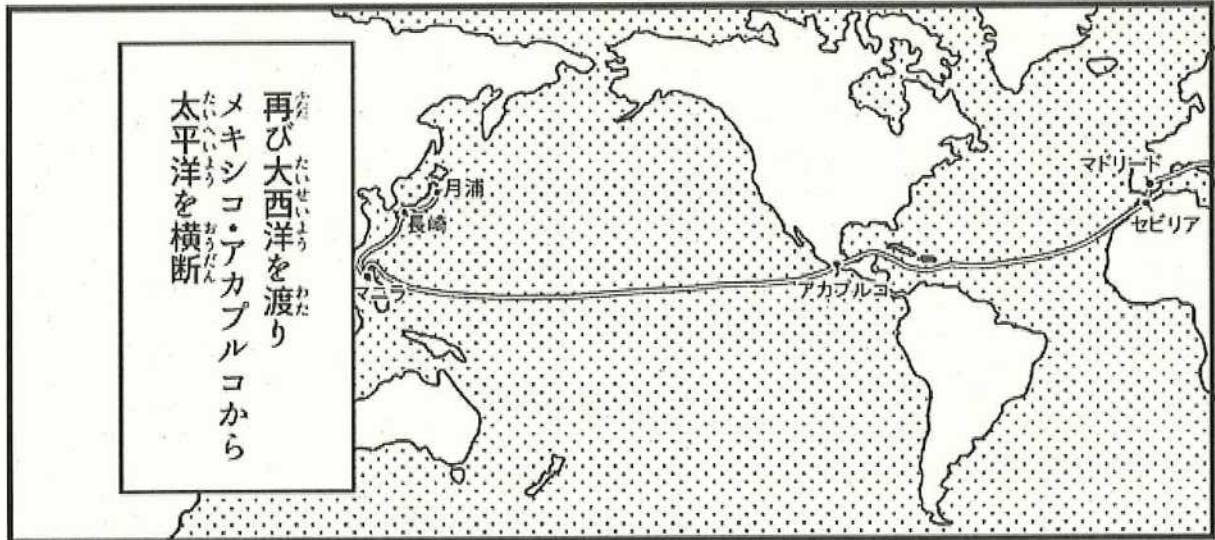
…まずは



メキシコへ  
戻りましょう



その後  
スペインを後にした  
常長らは



再び大西洋を渡り  
メキシコ・アカプルコから  
太平洋を横断



フィリピン  
滞在中

常長は  
息子・勘三郎宛に  
手紙を書いている



フィリピン・マニラに  
到着



便りが来たど喜び一筆申し入れる  
当年3月にノビスパンを出発し  
海上では何事もなく無事にルソンへ  
6月20日に到着したところである  
我らも当年中には帰りたいところだが  
ここで殿様の買い物などをいたし  
また船などをこしらえることになれば  
期日までに余裕がなく帰ることができない  
来年の6月には必ず帰朝するつもりである

この話を聞けば満足されるであろう  
まずこちらは何事もなく  
御足輕の3人衆をはじめ  
家来召使たちもみな息災である  
清八・助・大助の3人は  
ノビスパンから走り逃げてしまった—



これで  
御屋形様の望む  
貿易協定の締結は

ますます  
難しくなる



その後  
太平洋を2往復した  
サン・フアン・パウティスタ号は

スペイン海軍に  
売却された



約2年間過ごした  
フィリピンから  
他の船で  
長崎へ入り



常長  
51歳

1620  
(元和6)年

ア  
ア



約7年の  
旅を終えて

仙台に帰着



常長が帰着して  
数日後――

支倉六右衛門が  
無事帰国した  
ようです

御屋形様

そうか…

六右衛門が  
帰ってきたか



六右衛門が  
海の向こうにいる間

日本も変わった



ただ貿易の  
約束の方は…



六右衛門は  
御屋形様に  
お会いしたいと  
話していますが…

……



失礼いたします

タンッ



それではそのように  
取り計らいます



わしの立場上  
クリシタンの  
六右衛門に  
会うことはできん





このような形で  
呼びよせて  
悪かったな

ある日の夜

城下の  
とある屋敷



御屋形様…



大儀であったぞ



命をかけて  
南蛮まで  
行ってまいり  
ました

ご命令を  
果たせず…  
申し訳  
ございません…



残念なことだ

…六右衛門が  
いない7年の間  
日本も大きく  
変わった

この国が  
キリスト教徒に  
敵しい間は  
南蛮との定期的な  
貿易は難しいだろう

世の流れには  
逆らえない



…申し訳  
ございません

なんとお詫び  
申し上げれば…

顔を上げよ  
六右衛門

確かに  
南蛮との貿易協定は  
結ばなかった

しかし



おぬしらを  
乗せた船が  
大海を数度  
渡っている間に

メキシコや  
フィリピンで  
貿易ができた  
ではないか

それもまた  
当初の目論見  
どおりじゃ

その点では  
満足しておるぞ

御屋形様…

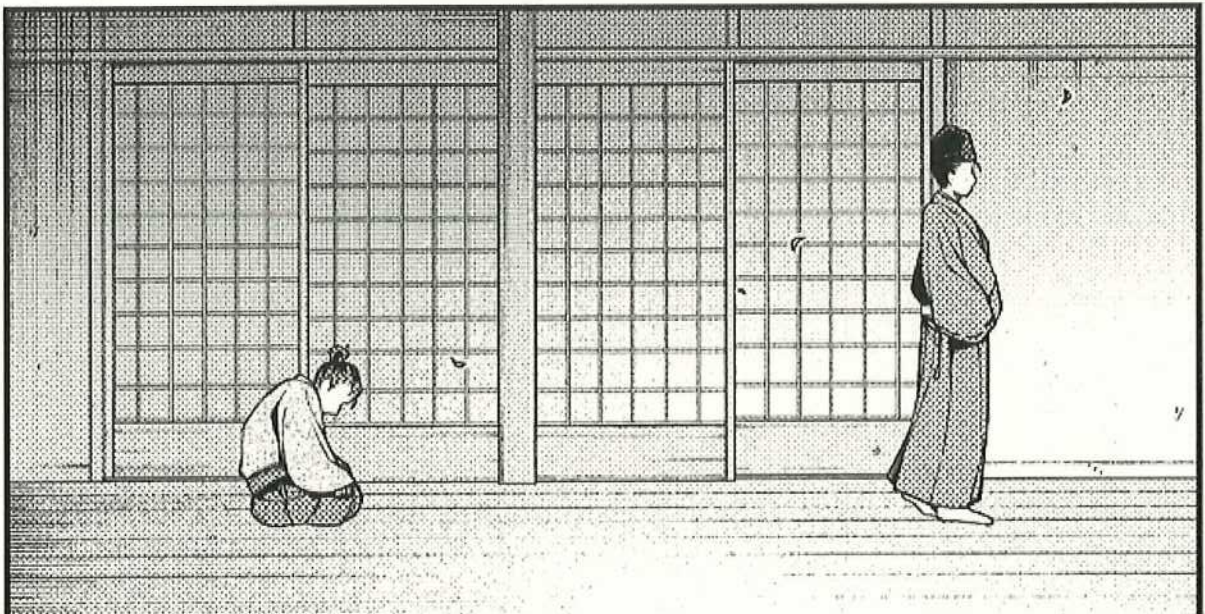
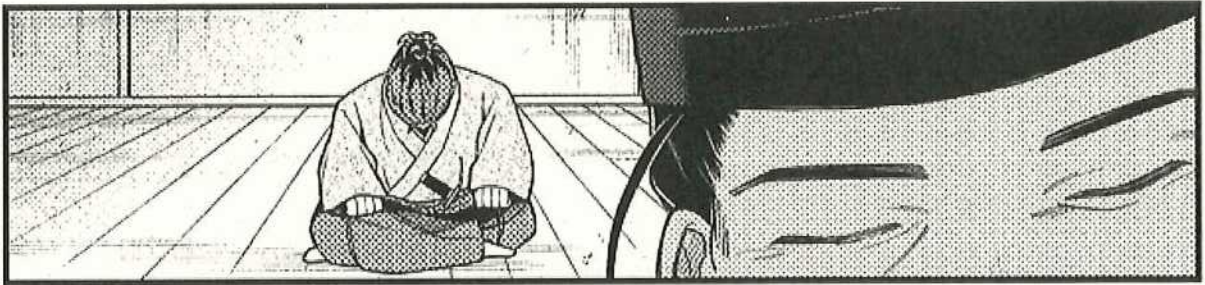


六右衛門

お前は  
あの大海を  
渡りきり

南蛮という  
異国へ行って  
親交を結び  
戻ってきたのだ

わしは  
誇りに思うぞ



1621  
(元和7)年



つねなが 常長 52歳

常長は  
亡くなるまで生涯に渡り  
キリスト教の信仰を  
続けたようである

長旅による疲労を  
回復しながら

自らの領地で  
周囲の者に  
キリスト教の教えを  
説いていたとも  
言われる

キリシタン禁令の  
強化により

そして

帰国後1年ほどで  
病死した

持ち帰った品々や  
南蛮での様子は

人々の記憶から  
消え去っていったのである



上橋城の麓に  
支倉本家の菩提寺である  
円福寺があり

この境内には

常長の墓と  
昔から伝わる  
石塔がある

また本堂には  
脇仏として  
仏像に模した  
マリア観音が  
祀られたことから

隠れキリシタンの  
証拠かと言い伝え  
られている



支倉常長と  
遣欧使節に  
光が当たるのは

約250年後の  
明治時代に  
なつてからである

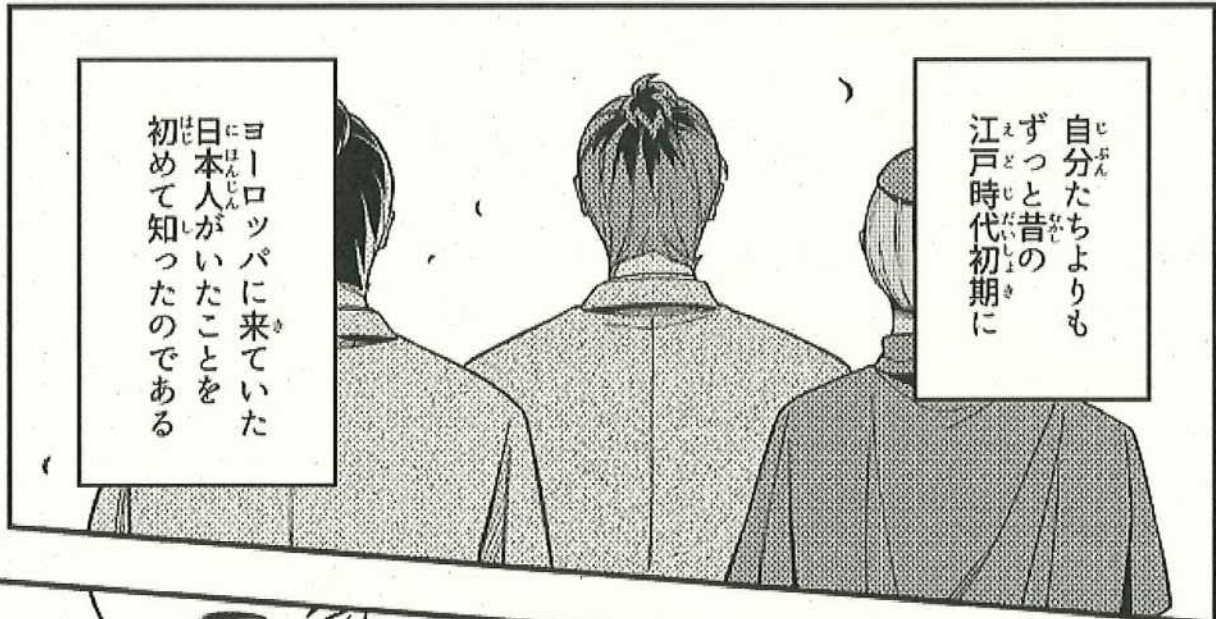


明治時代初め

政府により派遣された  
右大臣・岩倉具視を  
大使とする使節団は

日本から  
遠く離れた  
ヨーロッパで

ソテロと常長の  
書状を発見する



自分たちよりも  
ずっと昔の  
江戸時代初期に

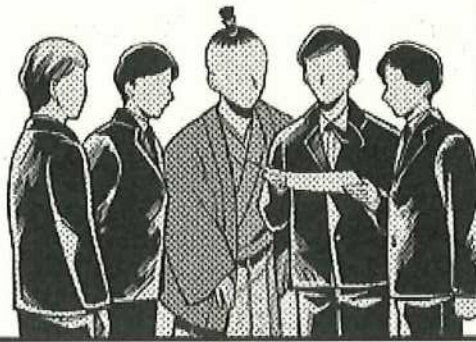
ヨーロッパに来ていた  
日本人がいたことを  
初めて知ったのである



西洋の地を踏んだ  
サムライの存在に

一行は驚きと感激の念を  
もったという

日本人の誇りを垣間見たのではないだろうか



西洋に追いつけ追いこせと言われていた明治時代の彼らは常長の功績にもきつと勇気付けられ

ヨーロッパに使節として渡航し大國スペインと外交交渉を行った史実は



そこで大きな役割を果たし東西文化の懸け橋ともなった男

はせくらつねなが  
支倉常長

世界史上の快挙として輝いている



ヨーロッパ社会との  
貿易は



今や当たり前  
になった

支倉常長という  
サムライは

ふたつの海を渡って

東北地方から  
ヨーロッパに向けて  
行われた

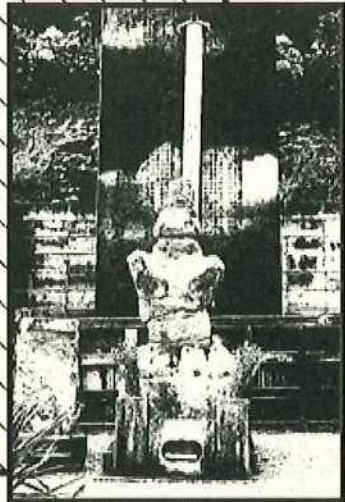
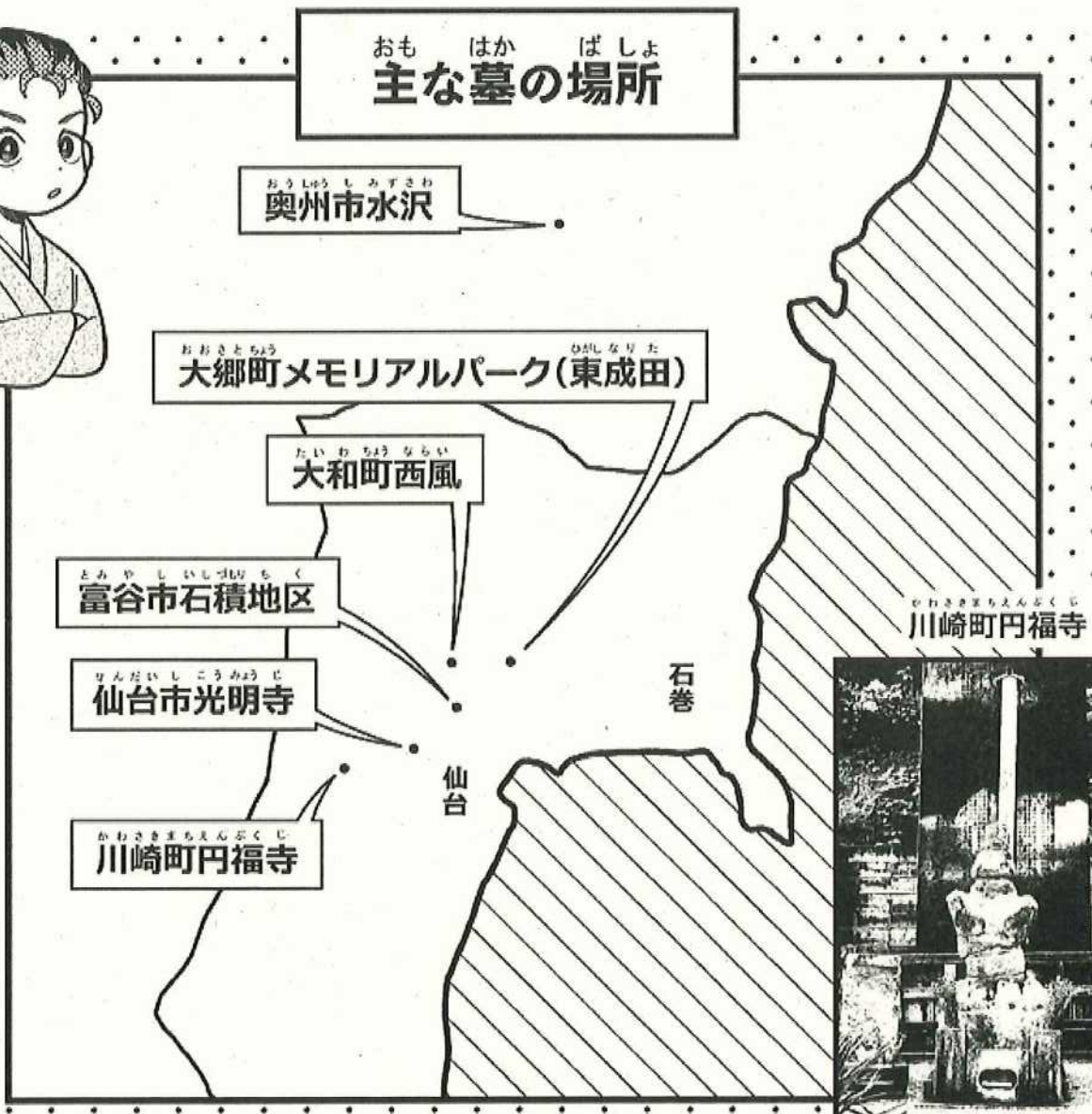
国際交流のさきがけと  
なったのである

はせくらつねなが  
**支倉常長の墓**の謎 ?

つねなが はか ばしよ ふくすう  
 常長の墓といわれる場所は複数あり、  
 みやぎけん いわてけん しょせつ  
 宮城県だけでなく、岩手県にもあって諸説あります。  
 しんそう ふめい  
 真相のほどはいまだ不明です。  
 れきし けんきゆう  
 これからの歴史研究によって、  
 ほんとう  
 本当のことがわかるようになるかもしれません。



おも はか ばしよ  
**主な墓の場所**



# あとがき。

ここまで読んでいただき  
ありがとうございました!!

この漫画を描いていく中で、  
私自身勉強になることがたくさんありました!

伊達政宗といえば、  
眼帯のイメージが強いと思いますが、  
最新の研究では眼帯をしていなかったことが  
わかってきています。

なので、この漫画に登場する政宗も、  
最新の研究に基づき、  
眼帯なしで描いております。

武士の服装や甲冑にも、  
いろいろな種類、デザインのものがあることが  
描いていてとても楽しかったです!



伊達家



支倉家



そして、  
本編には登場しなかったのですが、  
こちらが、支倉家の家紋に  
なります！

この漫画を描くにあたって、最初は不安もありましたが、  
たくさんの方のお力添えのおかげで、  
ここまで無事に描ききることができました！

この漫画を読んで、支倉常長の歴史を  
楽しく覚えてもらえたら嬉しいです！

あらためて、ここまで読んでいただき  
ありがとうございました！

ご感想等ありましたらこちらまで↓

ma96ss922ox@gmail.com

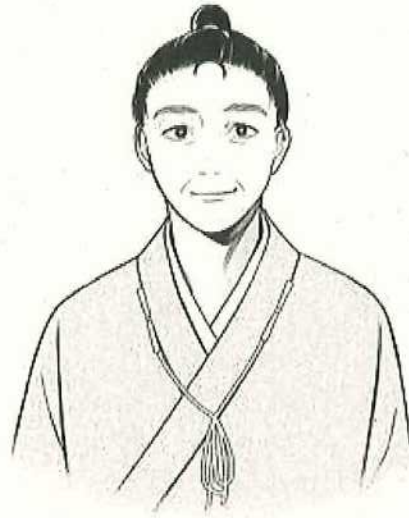
よろしくお願いします！

Haruka.



## 監修者のつぶやき

佐々木 徹



監修の佐々木さんを江戸時代の人っぽく描いてみました！ by Haruka.

マンガ「支倉常長」を読んでいただき、ありがとうございます。ました。

まずは簡単に自己紹介を。私は、昨年4月から人事異動のため仙台市文化財課で仕事をしていますが、それまでは仙台市博物館で支倉常長・伊達政宗関係資料などの管理や展示、調査・研究を担当する学芸員でした。

そんな経歴と、二〇二一年に出版された慶長遣欧使節の著書が目にとまったようで、川崎町から「支倉常長のマンガを作るから監修して！」というオファーをいただきました。このマンガのなかで、常長が「はたして私にそんな大役が務まるだろうか」と心の中でつぶやいていますが、私もまったく同じ心境でした。そんななかでも、ご担当だった川崎町生涯学習課の栗野繁さんには最後まで支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

歴史を絵にするという行為は、決して楽な作業ではありません。マンガとして様々な場面・情景を視覚的に表現するためには、かなり多くの情報を必要とするのですが、それらをすべて満たす史料、（たとえば古文書や古い絵画、工芸品、建物など）が全部そろって残されているわけではないからです。そうやってくると、当時の一般的な状況とか、参考にできそうな事例などを引っ張ってくるしかありません。

常長の人生もまた、すべてが事細かにわかっているわけではありません。生没年、政宗の初上洛や朝じょうらく

鮮出兵への随行、使番への任命、父の切腹と自身への追放命令、海外での旅の様子といった部分には確実な史料がありますが、彼の前半生には史料がほとんどなかったりもします。そこでこのマンガでは、政宗のそれ（元服十一歳、結婚十三歳、初陣十五歳）を参考にしました。この時期の年齢設定は意外と重要で、それによって顔や体つきの描き方、前後の出来事との配列関係などが変わってくるため、設定次第では話の印象や流れがガラッと変わってきます。もう一つです。

マンガとして読める、楽しめることも大事な要素ですので、史実と読み物のバランスにも少々頭を使いました。常長の使節任命にあたって、常長と政宗とソテロが顔を合わせる場面。実はこれ、実際にあつたかかなり微妙なのですが、前半のハイライトでもあり、江戸にある仙台藩の屋敷でなら可能性がゼロでないかも……ということで採用。キリシタン武士の滝野加兵衛がスペインに残留するのは史実ですが、現地の女性と恋に落ちたかは不明です。でも、あつたかもしれません。仙台帰着後の常長と政宗が密会するシーンも実際のところは不明ですが、政宗がこの使節事業のうち貿易について成功した部分もあつたと評価する点は、実際にあつたろうと考えています（詳しくは私の著書をご覧ください！）。

いろいろと考え出すと切りがないのですが、「ワクワクドキドキするような、面白く学べるマンガにしたい！」という情熱のなせるわざだと思つて、もろもろお許しただけだと思います。最後に、実は常長、当時の史料では「長経」と称していました。しかし、常長と名乗っていた可能性も現時点ではゼロでないため、本書では一般的に通用している「常長」を用いることにしました。この点もご了承いただければと思います。



町長自画像

## 発刊によせて

川崎町長 小山修作

約四百年前、戦場を駆けめぐり、遂には伊達政宗公の命を受け  
世界に飛び出していった男。百八十人の仲間を束ねた男。  
それが、我が川崎町で育った支倉常長です。

彼の責任と重圧と孤独は、いかばかりであったでしょうか。  
常長の勇氣、努力、忍耐を私達は忘れてはなりません。

時あたかも、世界中がコロナに苦しめられ、ウクライナでの  
戦いが、毎日、報道される中、私達は常長のことを思い出しましょう。  
世界を駆けめぐり、世界の人々を信じ、  
世界の人々と交渉した常長の偉大さを思い出しましょう。

このマンガをきっかけに、支倉常長の夢を知ってほしいと思います。  
そして、みなさんも夢に向かって努力してください。

## 柴田郡支倉氏、支倉六右衛門常長、慶長遣欧使節関連年表

西暦	和暦	事 項
1189年	文治5年	常陸国(茨城県)の武士・伊藤壱岐守常久、伊達朝宗(伊達氏の初祖)の子・宗村らに従軍。石那坂(福島市)の戦いで戦功をあげ、柴田郡支倉、信夫郡山口(福島市)、伊達郡梁川(福島県伊達市)に知行地を賜わって柴田郡支倉に居住し、支倉氏の初祖になったとされる。
1192年	建久3年	伊藤常久の息子である久成、伊達義広(宗村の子)に命じられ、居住地の地名である支倉を名字とし、支倉氏を称したとされる。
1547年	天文16年	伊達植宗、支倉新右兵衛忠常の戦功を賞して知行地や碓石川の築(魚を捕るための仕掛け)を与え、さらなる忠節を求める。 この頃に活動していた支倉紀伊守常正、伊達晴宗から知行地120貫文を許されたとされる(柴田郡支倉の上楯城の築城も常正の頃か)。
1570年	元亀元年	支倉六右衛門常長、支倉飛騨守常成(支倉常正の子である紀伊守時正の弟)の子として生まれる。
1577年	天正5年	この頃、常長が男子のいない伯父時正の養子になったとされる。
1591年	天正19年	常長、伊達政宗の初上洛にお供をする家臣の1人となる。
1592年	文禄元年	政宗、豊臣秀吉の命で朝鮮出兵に向かうため岩出山城を出陣し、のち京都から九州へ出陣。常長、御手明衆20名の1人として政宗に従軍。
1596年	慶長元年	この頃、支倉時正に男子が誕生したため、常長が時正の知行地60貫文を分与され、独立したとされる。
1600年	慶長5年	常長、この頃までに政宗の使番となる。関ヶ原の戦いが起こる。
1601年	慶長6年	政宗、仙台城と城下町の建設を開始する(千代城を仙台城へ改名)。
1612年	慶長17年	政宗、常長の実父常成に切腹、常長にも追放などの処分を命じる。
1613年	慶長18年	10月28日、常長が政宗の命を受け遣欧使節として牡鹿郡月浦を出帆。
1614年	慶長19年	1月29日、メキシコのアカプルコに到着する。
		10月5日頃、スペイン上陸。21日頃、コリアからセビリアに到着。
		12月5日頃、マドリッド到着。サン・フランシスコ修道院に宿泊。
1615年	元和元年	1月30日、常長がスペイン王宮でフェリペ3世に謁見する。
		2月17日、常長がフェリペ3世ら列席のもとで洗礼を受ける。
		10月25日、ローマに到着。29日、ローマ入市式挙行。
		11月3日、常長がサン・ピエトロ宮殿でパウルス5世に謁見する。
		11月20日、ローマ市議会が常長らへの市民権の授与、および常長を貴族に列することを決議する。
1616年	元和2年	4月17日頃、スペイン政府と再交渉するためマドリッドに到着。
1618年	元和4年	4月2日、アカプルコを出帆。8月10日、フィリピンに到着。
1620年	元和6年	8月頃、フィリピンを出帆した常長が長崎に到着する。
		9月20日、常長が遣欧使節の役目を終え仙台に到着する。その数日後、政宗が領内に向けてキリスト教禁止の札を立てる。
1621年	元和7年	支倉常長が病没する(52歳)。

## ●偉人マンガ製作・活用検討委員会委員

- 大宮 金治（文化財保護委員会委員長）
- 大宮 里見（文化財保護委員会副委員長）
- 真壁 治平（文化財保護委員）
- 佐藤 貞二（文化財保護委員）
- 渡邊 榮次（常長顕彰会会長）
- 山岸 良太（富岡中学校教諭）
- 金子 航太（川崎小学校教諭）
- 佐藤 淳（富岡小学校教諭）
- 栗野 繁（生涯学習課社会教育指導員、文化財保護委員）
- 村上 透（生涯学習課課長補佐）

●マンガ 「Haruka.」

●監修 佐々木 徹（仙台市教育委員会文化財課主任 学芸員）

●シナリオ 栗野 繁

●協力 学校法人北杜学園仙台デザイン専門学校

●参考文献 慶長遣欧使節 伊達政宗が夢見た国際外交  
（吉川弘文館）佐々木 徹 著  
仙台市史特別編 8 慶長遣欧使節 など

## マンガ ふるさとの偉人「支倉常長」

本書は公益財団法人 日本財団、公益財団法人 ブルー・シー・アンド・  
グリーンランド財団からの助成金を受けて作製しております。

発行日 2023年3月15日

発行人 川崎町

印刷所 株式会社 津田印刷

本書の収録内容の無断転載、複写、引用は  
著作権上の例外を除き禁じられています。



